

まちだの子ども施策

2008（平成20）年度

町田市子ども生活部

「まちだの子ども施策 2008 年度」について

本書は、町田市の子どもの状況や子ども施策の概要をまとめたものです。

本書は、「町田市子どもマスタートップラン」(2005 年度からの 10 年計画) の進捗状況を報告するものです。

本書は、「次世代育成支援対策推進法」に基づく「町田市次世代育成支援対策推進行動計画」の措置の実施状況を報告するものです。

子ども施策に基づく事業は、主に 2007 年度実施されたものを掲載しています。

人口や保育園の入所者数等のデータは、主に 2008 年 4 月 1 日現在のものを掲載しています。

目 次

1 . 2008年度 子ども生活部長の仕事目標	1
(1) 子ども生活部の使命・基本方針	1
(2) 子ども生活部の現状	1
(3) 子ども生活部の課題	2
(4) 子ども生活部の中・長期目標	2
2 . 町田市の概要	4
(1) 東京都における位置等	4
(2) 町田市の人口	5
(3) 町田市の人口動態	7
(4) 町田市の子どもの人口と出生数	8
(5) 就学前児童の状況	11
3 . 町田市の子ども施策の体系	12
(1) 町田市中期経営計画 重点プラン(抜粋)	12
戦略目標3 子育て・保健福祉のまちの創造	
重点施策3-1 保育所の入所待機児童を解消する	12
重点施策3-2 子育て家族を支える	13
重点施策3-3 多様な体験ができる機会を充実する	14
(2) 町田市基本構想・基本計画(抜粋)	15
(3) 町田市子どもマスタートップラン	16
(4) 町田市子どもマスタートップランの基本理念・基本的視点・基本目標	17
(5) 町田市子どもマスタートップランの施策体系	19
4 . 子どもマスタートップランに基づく各施策の取り組み	20
・ 基本目標 子どもが健やかに育ち、一人ひとり自分の中に光るものを持っている	21
・ 重点目標1 子どもの遊びや体験が大切にされ、主体的に参加し意見表明できる	21
・ 個別目標1 コミュニケーション能力を育てる	21
・ 個別目標2 参加と意見表明の場や機会をつくる	22
・ 個別目標3 救済とやり直しの場や機会を保障する	23
・ 重点目標2 大人になっていく力がつくようになる(市民性の形成を育む)	24
・ 個別目標1 乳幼児期の養護を充実させる	24
・ 個別目標2 幼児教育を充実させる	24
・ 個別目標3 学校教育を充実させる	24
・ 個別目標4 思春期の子どもの心と体の健康教育を充実する	25
・ 個別目標5 体験活動から学ぶようになる(文化・スポーツ活動等)	26
・ 基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている	29
・ 重点目標1 親になる力を身につける	29
・ 個別目標1 親スタート期を支える	29
・ 個別目標2 子育て期を支える	30
・ 個別目標3 男女共同の子育てを進める	32
・ 個別目標4 親の悩みを支える	33
・ 重点目標2 親が働くことを支える	34

・個別目標 1 保育支援	34
・個別目標 2 サービスの質の向上と効果的・効率的な提供の充実	37
・重点目標 3 きめ細やかな支援が必要な家族を支える	38
・個別目標 1 障がいのある子どもと家族への支援	38
・個別目標 2 ひとり親家庭への支援	39
・個別目標 3 外国籍家族への支援	39
・個別目標 4 被虐待児（DV家族児童を含む）と家庭への支援	40
・基本目標 子どもが地域の中で大切にされている	41
・重点目標 1 人と人が関わりつながる場をつくる（家庭・施設・学校・地域・行政の協働）	41
・個別目標 1 地域の人材育成と人材活用	41
・個別目標 2 地元事業所・商店の関わり	42
・個別目標 3 体験できる場（多様な体験ができる機会を増やす）	42
・個別目標 4 交流できる場（子どもや子育てをしている人がふれあい情報交換できる場をふやす）	44
・個別目標 5 子どもセンター・地域子育てセンターを中心とした地域づくり	45
・重点目標 2 一人ひとりに情報が確実に届く	45
・個別目標 1 子どもと親への情報を確保する	45
・重点目標 3 みんなで安全・安心のまちをつくる	46
・個別目標 1 子どもの安全・安心を確保する	46
・個別目標 2 子育てしやすいまちづくりをする	47
5 . 次世代育成支援対策推進法による特定14事業の状況	48
6 . 町田市の組織	52

巻末資料

- (1) 保育園位置図 一覧表
- (2) 学童保育クラブ／子どもセンター／子どもクラブ位置図 一覧表
- (3) 幼稚園位置図 一覧表

1. 2008年度 子ども生活部長の仕事目標

子ども生活部長 浅野 正

（1）子ども生活部の使命・基本方針

子どもたちが健やかに育ち、子育てが楽しくできるまちは、人もまちも輝く、「希望があふれるまち」です。すべての子どもたちの健やかな成長は当事者である「親・家族」と「地域社会」の役割・責務であり、子どもたちが地域の『タカラ』として育まれ明日の地域社会を責任を持って積極的に担えるよう、年齢・年代に応じた包括的かつ多様な『次世代育成支援』を推進します。

首都東京の近郊通勤圏に位置し、魅力ある住宅商業文化都市としての町田市を意識するとともに、多摩丘陵の緑豊かな自然と市民活動が活発に行われている実績やこれまでの所産に着目して、市民=顧客の多様なニーズに応える品質の高いサービスを創意工夫により提供し、すべての子どもたちの成長を親・家族・社会の全体で支える「子育てのまちの創造」を推進します。

（2）子ども生活部の現状

次世代育成支援対策推進法に基づく「子どもマスターplan」の中間見直しは、進捗状況の評価とともに社会状況等の変化や中期経営計画を見据えた見直し作業を行っています。

未就学児童を対象とした2008年4月1日現在の保育サービスについては、認可保育所（定員4,398名）・認証保育所（定員225名）・保育室（定員24名）・家庭福祉員（定員18名）、認定こども園、幼稚園の預かり保育などを行っていますが、保護者の就労希望等の新たなニーズに追いつかず、待機児童の解消には至っていません。

放課後の校庭開放や地域子ども教室、冒険遊び場などのいわゆる子どもの居場所的な活動は、学校施設や公園等を利用して市民により継続的に行なわれているところですが、子どもが安全に安心して活動できる「子どもの居場所」や「子どもの体験活動支援」の充実が求められています。

主に小学校の低学年児童を対象とした学童保育クラブは、1小学校区1施設を目標に2008年4月現在39施設を設置し、残る2校区と新設の図師小学校の施設も今年度中に整備が完了しますが、入所希望児童数が増加しており、入所児童数が71名を超える施設が14カ所、そのうち100名を超える施設が6カ所もあるなど改善が望まれています。

「子どもセンター」は市内5カ所を目標に整備を進めており、2009年には、3カ所目の「相原子どもセンター」がオープンする予定です。

子育てに関する親・家族の悩みや問題は、複雑多岐にわたっており、単独の窓口で解決することが困難になりつつあります。

（3）子ども生活部の課題

中期経営計画「重点政策プラン」・「行政経営改革プラン」の担い手として、町田市における子ども施策の一元化を生かした部経営が求められています。

町田市子どもマスターPLANの中間見直しにあたっては、進捗状況の評価とともに社会状況の変化と国や都の「子育て重点戦略」を見据えた作業が必要です。

保育園や学童保育クラブの入所希望児童数は、増加しており、施設の新設・建て替え・増築等の計画的な施設改善と運営の見直し・最適化や基幹保育園構想の構築など、子育て支援に関する総合的・包括的な施策が求められています。

主役である子どもの声や地域における市民の意見等を反映した、子どもが安全に安心して活動できる「子どもの居場所づくり」や自然の中での遊び・体験を通じての「子ども体験活動支援」などが求められています。

子どもを支援する機関が連携し、子どもや家族の状況に応じた適切かつ一貫した相談や支援をすることができる機能の強化・充実が求められています。

市民サービスの充実を目指して事務効率の向上と職場の働く環境を改善するため、部内組織の見直しと人材活用、時間外勤務の縮減など具体的な取り組みが必要です。

（4）子ども生活部の中・長期目標

【重点目標】

保育サービスの充実と子育て相談に応える取り組み

	内 容	達成状態	達成時期
1 認可保育園の整備	建て替え3園・増築1園、分園1園等の整備のほか、保育サービス「定員増4ヵ年計画案」を作成	160名定員増	2008年～2011年度
2 認証保育所の支援	小山・小山ヶ丘地域に1ヵ所新設	29名定員増	2008年～2011年度
3 認定こども園の整備	本町田地域などに新設	2ヵ所新設	2008年～2011年度
4 預かり保育事業の充実	2ヵ所整備	2ヵ所整備	2008年度
5 保育サービスの充実に向けて公立保育園のあり方と運営の最適化を検討		保育サービス検討 委員会の設置	2008年度
6 子育て相談の充実	3ヵ所整備・出張相談会の実施	3ヵ所整備	2008年度

子どものニーズに応える多様な取り組み

	内 容	達成状態	達成時期
7	子どもの居場所づくりを市民協働で推進	市民と協働する懇談会及び地域会議で多様なタイプを検討 懇談会及び市内5ヵ所の地域会議を立ち上げ	2008年度
8	子どもの体験活動を支援	子どもセンター・ひなた村・大地沢青少年センターや自然休暇村などで実施 各施設利用者10%増	2008年度

【マネジメント目標】

部の経営品質を向上する取り組み

	内 容
1	課長の仕事目標と部内会議・子ども総務課による進捗管理
2	まちだ子ども情報ネットワーク
3	子どもマスターPLANの改定と子育て応援都市東京・重点戦略等の共通認識
4	部内組織の見直しと事務効率の向上・時間外勤務の縮減
5	女性職員や中堅職員等の人材活用・人材育成
6	新公益法人制度の研究と支援

（注）重点目標とは、政策課題や重点事業に視点を置いた目標であり、マネジメント目標とは組織内部の効率化や生産性の向上に視点を置いた目標です。

（注）「部長の仕事目標」は、2006年度よりスタートした制度です。町田市公式ホームページの「トップページ」「市の取り組み」「部長の仕事目標」からもご覧いただくことができます。

<http://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/torikumi/buchomani/index.html>

2. 町田市の概要

	内 容
市政 施 行	1958年2月1日東京都で9番目、全国で504番目に市制施行。
位置・地勢	東京都の南端にあって、半島のように神奈川県に突き出ています。市のほぼ全域が多摩丘陵に含まれ、市域の平面形は丘陵の西南線に沿う狭長な形態になっています。地質は、主として表面5~15mの関東ローム層におおわれています。
広 ぼ う	東西22.3km 南北13.2km
海 抜	最高364m 最低27m
面 積	71.63km ²
世 帯 数	176,927世帯 (2008年4月1日現在)
人 口	417,415人 (2008年4月1日現在)
人 口 密 度	5,827人/km ² (2008年4月1日現在)

* 世帯数・人口・人口密度には外国人を含みます。

(1) 町田市の位置

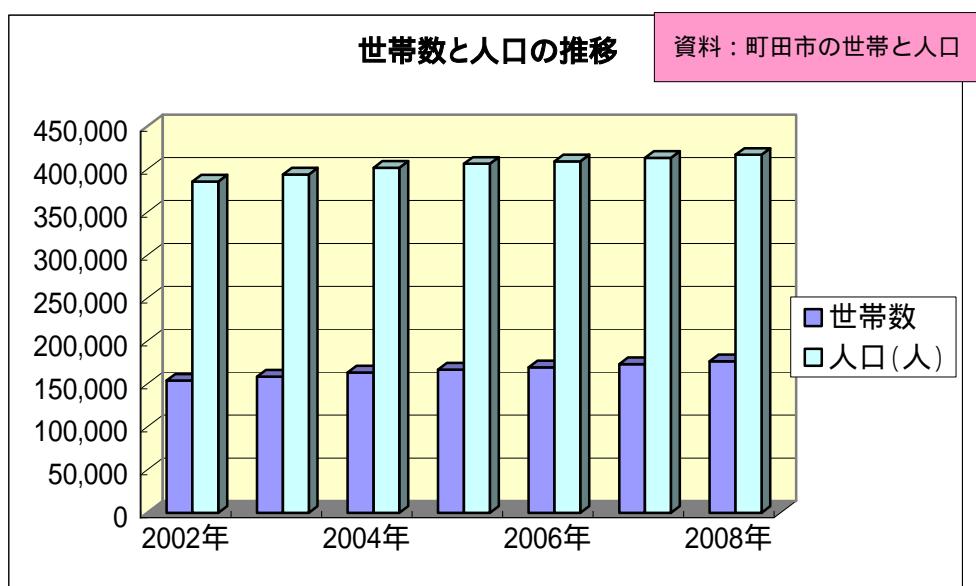


資料：町田市統計書第41号（2007年度発行）

町田市の人口

(2) 町田市の人口

人口と世帯数の推移 (単位:人 各年1月1日現在 外国人を含む)



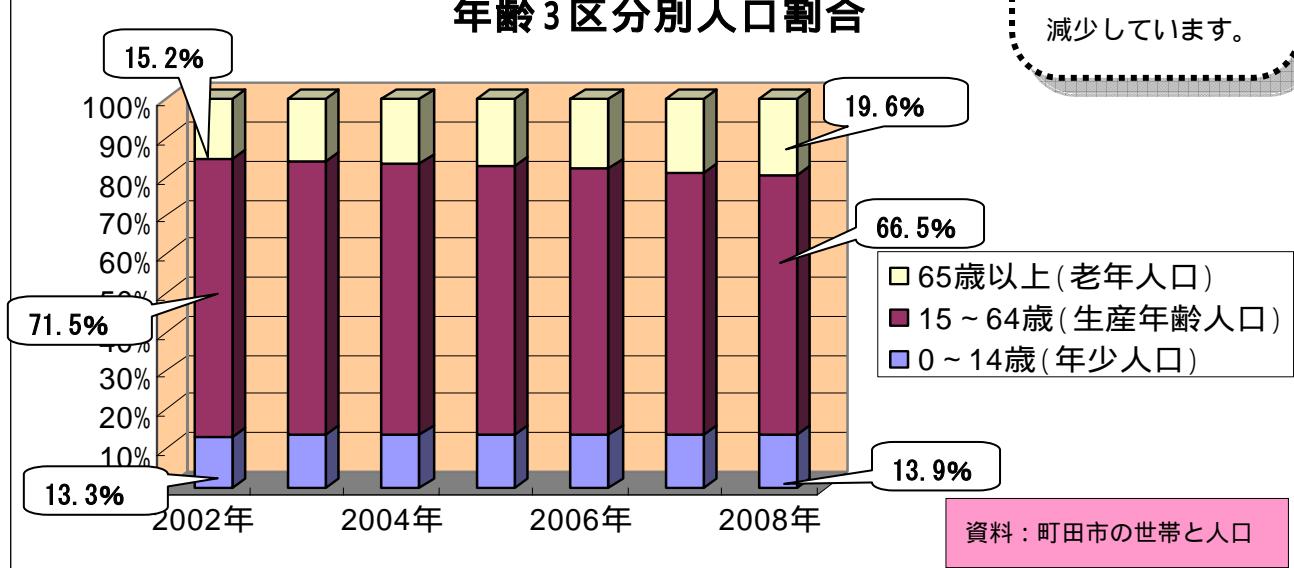
町田市の人口は、市制施行以来増加しています。1958(昭和33)年の市制施行時の人口は、約6万1千人でしたが、2008年には約41万7千人となり、市制施行時の6.8倍になっています。

区分 年	世帯数	人 口		
		総数	男	女
2002	153,755	385,689	191,731	193,958
2003	158,536	393,666	195,489	198,177
2004	163,325	401,672	199,154	202,518
2005	166,583	406,281	201,065	205,216
2006	169,364	409,017	202,328	206,689
2007	173,085	413,176	204,379	208,797
2008	176,197	416,693	205,896	210,797

資料:町田市の世帯と人口

町田市の年齢3区分別人口割合では、65歳以上の高齢者の占める割合が年々増加しています。0~14歳の年少人口は、微増を続けていますが、15~64歳の生産年齢人口は、減少しています。

年齢3区分別人口割合



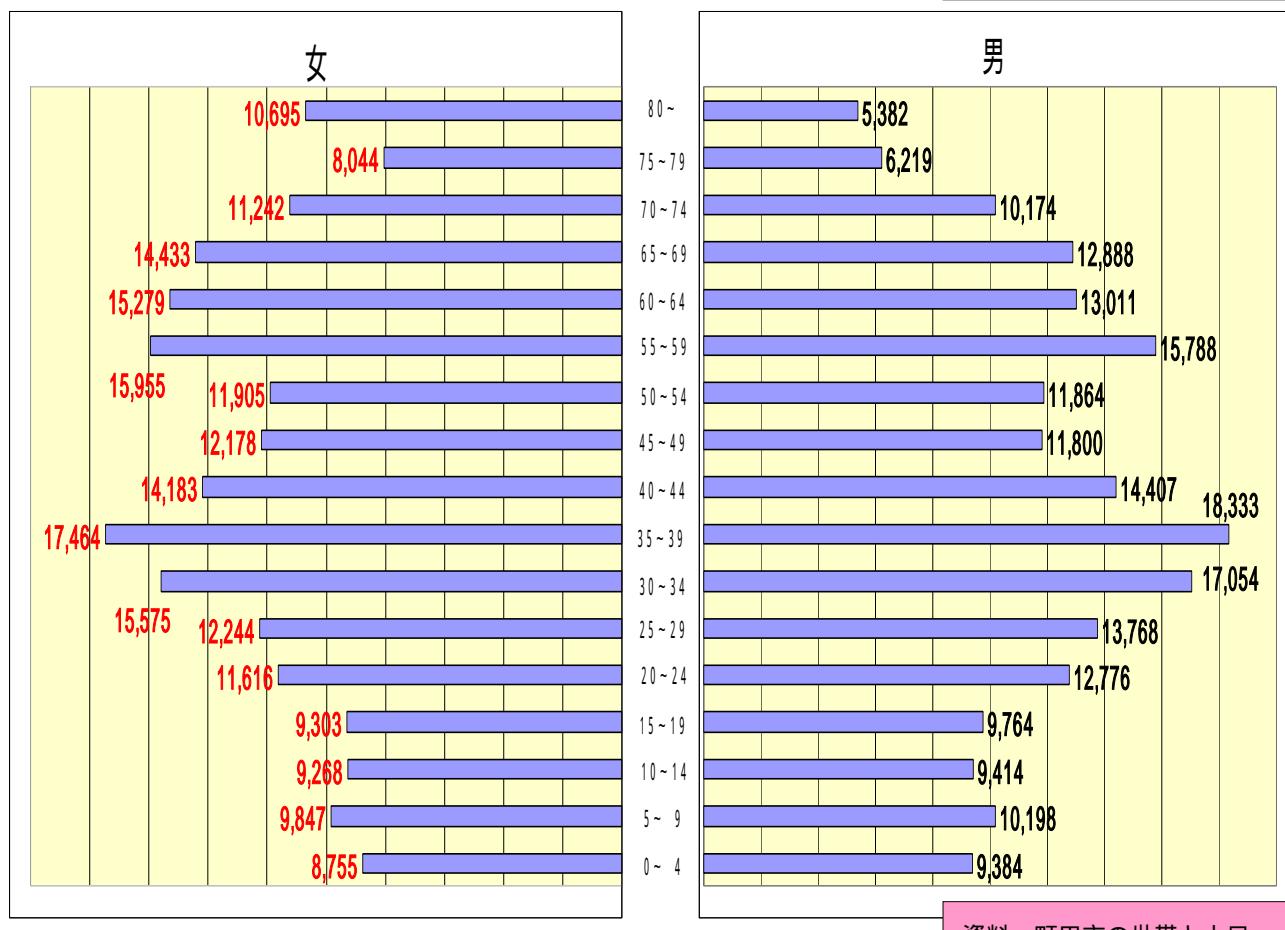
資料:町田市の世帯と人口

町田市の人口

年齢階級別人口（単位：人 2008年1月1日現在 外国人を含まず）

年齢区分	総数	男	女	年齢区分	総数	男	女
0 ~ 4	18,103	9,348	8,755	45 ~ 49	24,565	12,387	12,178
5 ~ 9	20,195	10,348	9,847	50 ~ 54	23,356	11,451	11,905
10 ~ 14	18,979	9,711	9,268	55 ~ 59	30,813	14,858	15,955
15 ~ 19	18,808	9,505	9,303	60 ~ 64	28,832	13,553	15,279
20 ~ 24	24,204	12,588	11,616	65 ~ 69	27,517	13,084	14,433
25 ~ 29	25,412	13,168	12,244	70 ~ 74	21,926	10,684	11,242
30 ~ 34	31,902	16,327	15,575	75 ~ 79	14,828	6,784	8,044
35 ~ 39	36,039	18,575	17,464	80歳以上	16,526	5,831	10,695
40 ~ 44	29,716	15,533	14,183	総計	411,721	203,735	207,986

資料：町田市の世帯と人口



資料：町田市の世帯と人口

男女ともに 55～59 歳と 35～39 歳の二つの人口のピークがあります。20 歳以下の人口は、各階級とも 20 歳以上の人口を大きく下回っており、この世代の人口は、今後も減少していくことが予想されます。

町田市の人口動態

(3) 町田市の人口動態

【自然増減】

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
出生数(人)	3,176	3,242	3,285	3,315	3,214	3,400	3,345
死亡数(人)	2,183	2,243	2,439	2,519	2,673	2,770	2,791
自然増減(人) 【出生数-死亡数】	993	999	846	796	541	630	554

出典：東京都人口動態統計年報

【社会増減】

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
転入者数(人)	17,951	18,666	18,171	16,374	15,443	15,322	15,116
転出者数(人)	13,631	13,282	13,326	13,163	13,166	12,318	12,146
社会増減(人) 【転入者数- 転出者数】	4,320	5,384	4,845	3,211	2,277	3,004	2,970

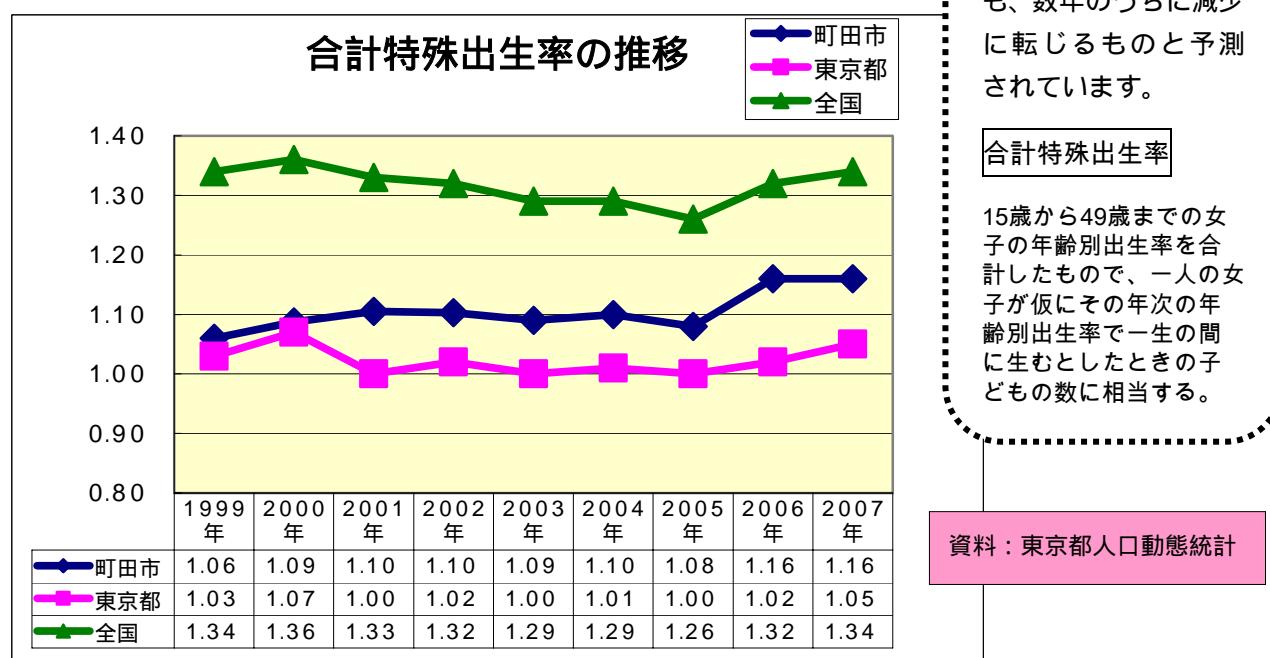
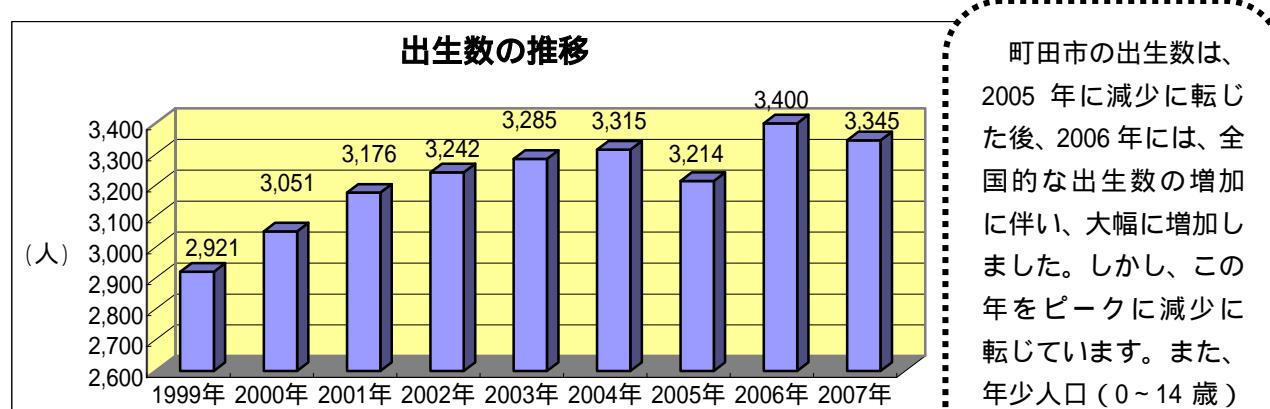
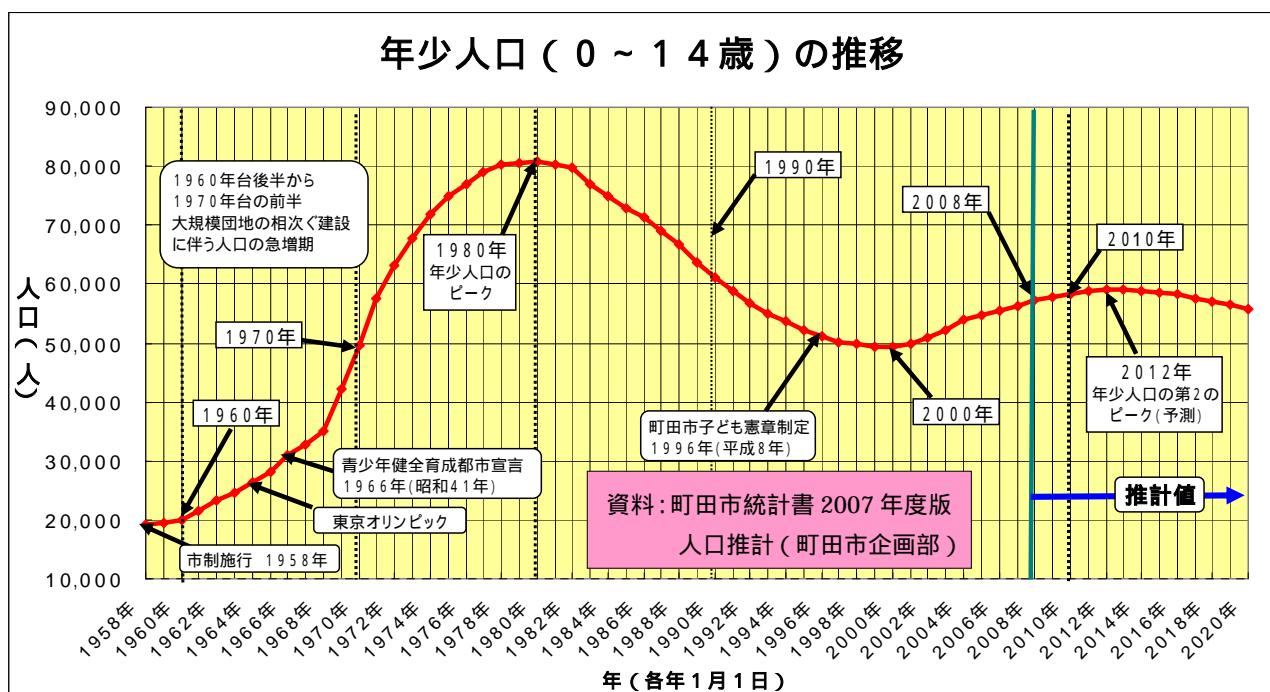
出典：人口の動き（東京都ホームページ）

【婚姻と離婚】

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
婚姻件数(件)	2,271	2,179	2,236	2,060	1,955	2,000	1,992
離婚件数(件)	783	816	821	739	809	752	753

出典：東京都人口動態統計年報

町田市の子どもの人口と出生数
(4) 町田市の子どもの人口と出生数



町田市の出生数は、2005年に減少に転じた後、2006年には、全国的な出生数の増加に伴い、大幅に増加しました。しかし、この年をピークに減少に転じています。また、年少人口（0～14歳）も、数年のうちに減少に転じるものと予測されています。

合計特殊出生率

15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

町田市の子どもの人口と出生数

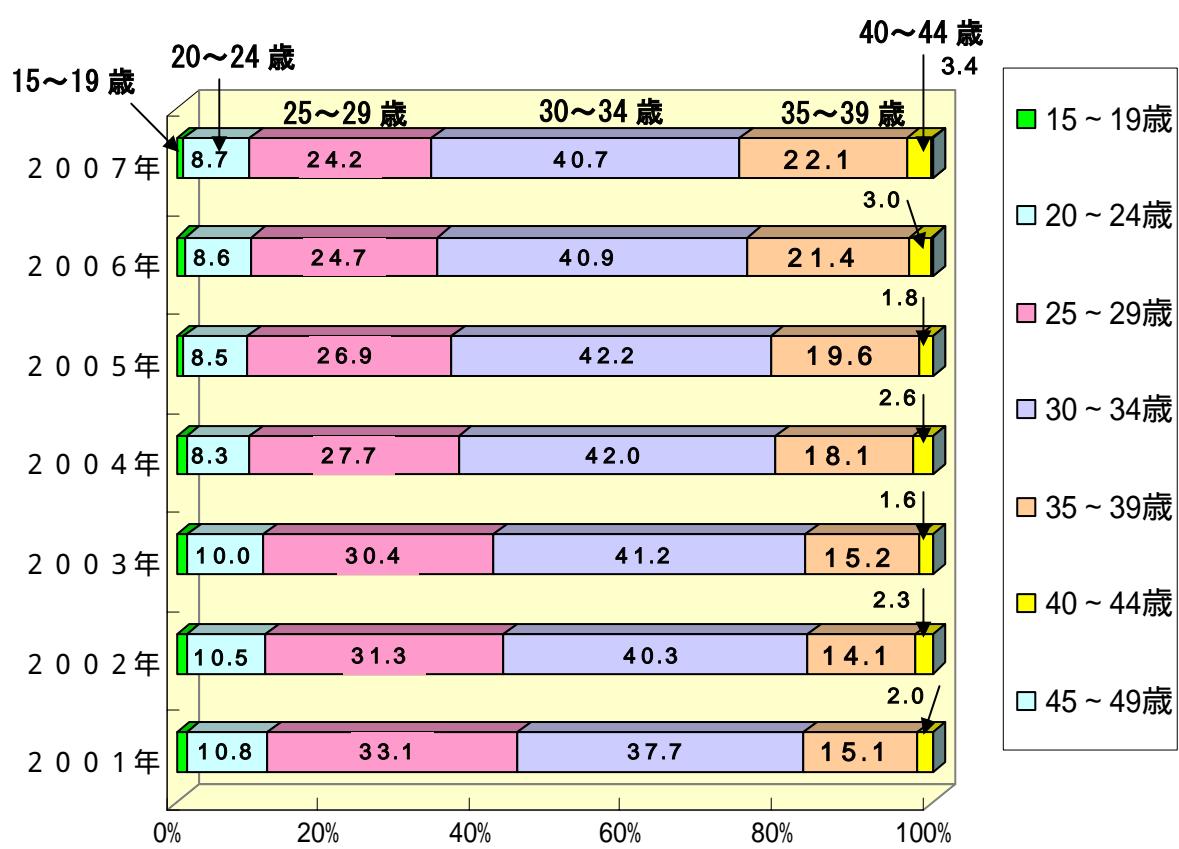
【母の年齢 5歳階級別】

年	計	15歳未満	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	不詳
2001年	3,176	1	42	342	1,051	1,197	478	64	1	0	0
2002年	3,242	0	43	341	1,016	1,308	458	75	1	0	0
2003年	3,285	1	47	330	998	1,355	499	54	1	0	0
2004年	3,315	0	44	276	917	1,391	600	87	0	0	0
2005年	3,214	1	32	273	865	1,355	629	59	0	0	0
2006年	3,400	0	44	293	840	1,391	726	101	5	0	0
2007年	3,345	0	28	292	811	1,360	738	114	2	0	0

資料：東京都人口動態統計

出生数【母の年齢 5歳階級別】の割合の推移 (単位: %)

(年)



20歳代までの出産の割合は減少しています。2001年には、約45%が20歳代までの出産でしたが、2007年には、約34%にまで減っています。一方、30歳以上の出産の割合は年々増加しており、2007年では約66%が30歳以上での出産となっています。

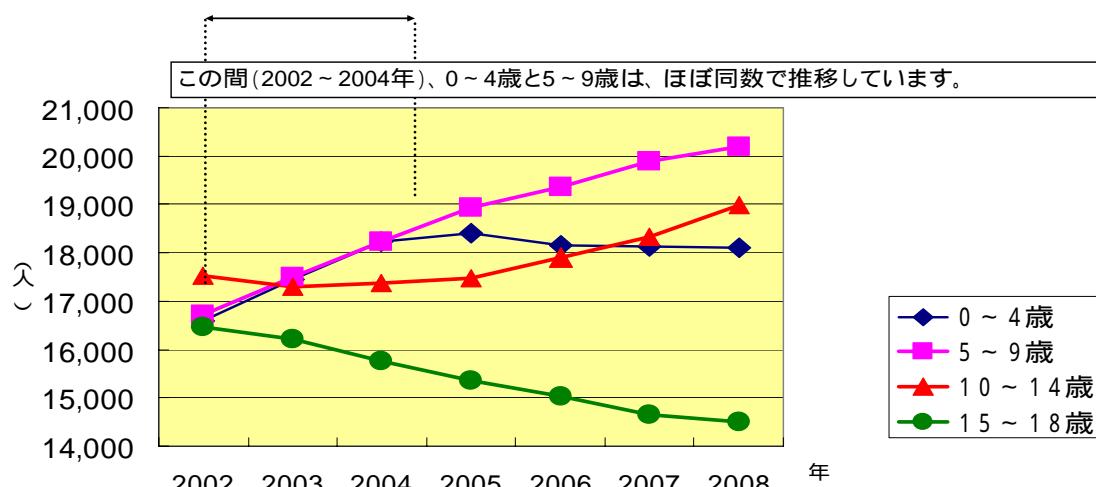
【児童人口（0～18歳）の推移】

各年1月1日現在（人）

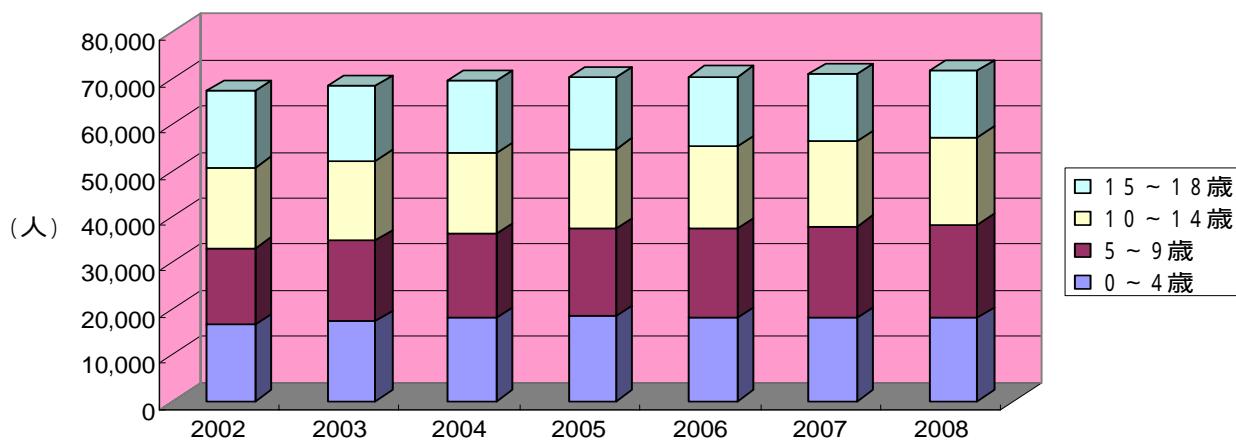
児童人口（0～18歳）の推移

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～18歳	合計
2002	16,595	16,713	17,514	16,466	67,288
2003	17,442	17,507	17,305	16,210	68,464
2004	18,223	18,226	17,386	15,757	69,592
2005	18,412	18,924	17,481	15,366	70,183
2006	18,164	19,353	17,896	15,027	70,440
2007	18,142	19,901	18,336	14,667	71,046
2008	18,103	20,195	18,979	14,493	71,770

児童人口（0～18歳）の推移

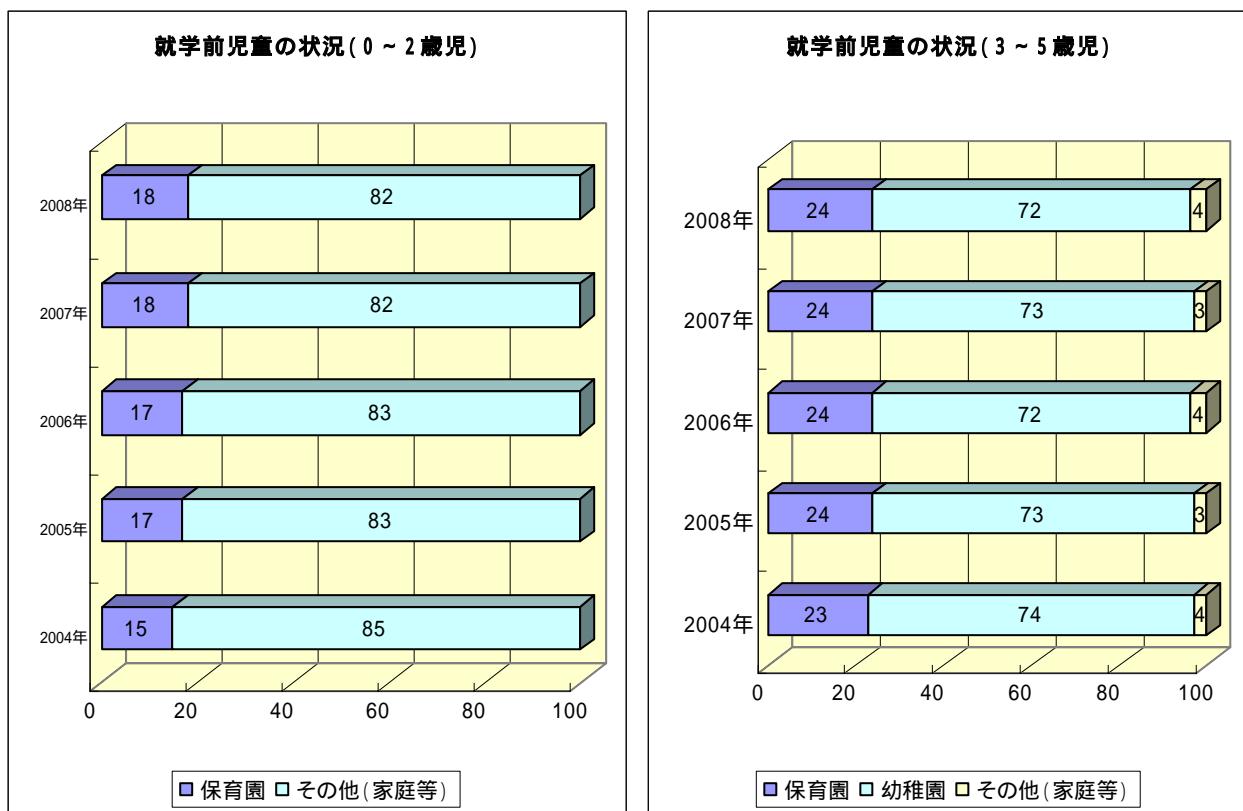


児童人口の推移（0～18歳）



児童人口（0～18歳）は、全体的には微増が続いているですが、15～18歳は減少しています。一方、5～14歳の小・中学生の人口は、増加を続けています。しかし、0～4歳の人口は、2005年をピークに減少に転じており、数年後には児童人口全体が減少に転じるものと予測されます。

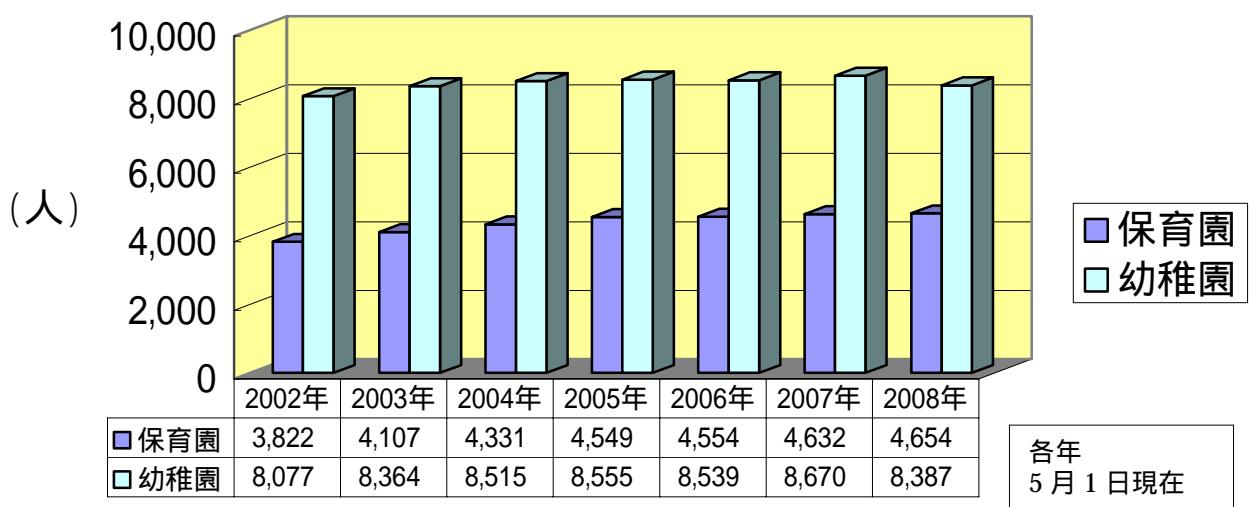
就学前児童の状況
(5) 就学前児童の状況(基準日: 2008年5月1日 単位: %)



資料: 子ども生活部子育て支援課・子ども総務課

0~2歳では、80%以上の子どもが、家庭で保護者と過ごしています。3~5歳児になると全体の約3/4の72%の子どもが幼稚園に通園し、約1/4の24%の子どもが保育園に通園しています。

保育園・幼稚園在籍園児数の推移



3. 町田市の子ども施策の体系

（1）町田市中期経営計画 重点プラン(抜粋)

戦略目標3 子育て・保健福祉のまちの創造

重点施策3-1 保育所の入所待機児童を解消する

～施策の取り組みの方向～

保育園や認可外保育施設などの定員を増員し、待機児童の解消を進めるとともに、様々な子育てのニーズに応じたサービスを提供できるよう、幼稚園や民間の保育園と協力して、サービスの一層の充実を図ります。

～成果指標～

成果指標	現状値	目標値
保育園入所定員 <府内資料>	139人 (2007年4月)	0人 (2007年4月)

重点事業3-1-1 保育園整備

事業概要	・老朽化が進んだ市立保育園の建て替え整備を進めます。 ・私立保育園の新設、および建て替え整備に対する支援を行います。
目標	保育園入所定員 <府内資料>
現状値	4,291人 (2007年4月)

目標値 4,558人

重点事業3-1-2 認可外保育施設*1運営支援

事業概要	・認可外保育施設を新設、および運営する事業者に対する支援を行います。 ・認可外保育施設に子どもを預ける家庭に対する経済的支援を行います。
目標	認可外保育施設入所児童数 <府内資料>
現状値	185人

目標値 296人

*1 【認可外保育施設】 施設や保育内容など東京都の基準を満たした保育施設のことをいいます。

重点事業3-1-3 幼稚園児預かり事業

事業概要	・長時間の園児預かりサービスを行う幼稚園や、保育と教育の一体的なサービスを提供する幼稚園・保育園に対する支援を行います。
目標	預かり保育実施幼稚園数（注）<府内資料> 認定子ども園数 <府内資料>
現状値	6園 0園

目標値 11園
5園

(注) 町田市の補助基準を満たしている幼稚園数です。

重点施策3-2 子育て家族を支える

～施策の取り組みの方向～

子育て家族が安心して子育てができるよう、子育てに関する相談や、親同士が情報交換できる機会の提供のほか、学童保育クラブの整備を進めます。

また、虐待に対する対処や障がいを持つ児童の子育てには、専門的なアドバイスや支援機能をさらに充実します。

～成果指標～

成果指標	現状値	目標値
児童虐待件数＜府内資料＞	97件	

重点事業3-2-1 子育て相談

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 児童虐待や育児放棄の原因となる子育ての不安や負担を軽減するため、不安や疑問を気軽に相談できる機会や、専門的なアドバイスを受けられる機会を提供します。 子育て家族が気軽に集え、保育士や家族同士が交流、相談ができる機会を提供します。 児童虐待などの深刻な事態により迅速に対処するため、体制の強化に向けて東京都に働きかけます。 	
目標	子ども家庭支援センター相談件数＜町田の子ども施策＞ 在宅子育て家庭支援実施保育園数＜府内資料＞	
現状値	899件 21園	目標値 33園

重点事業3-2-2 乳幼児の発達支援

事業概要	発達に遅れや心配のある乳幼児の療育のあり方を検討します。		
目標	療育内容、療育体制の再構築		
現状値	-	目標値	2008年度基本方針作成

重点事業3-2-3 学童保育クラブ整備

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> すべての小学校区に学童保育クラブを整備します。 100名を超える児童が入所し、大規模化している学童保育クラブについて増築などの整備を行い狭い化を解消します。 		
目標	学童保育クラブ施設数(注) ＜まちだの子ども施策＞ 大規模学童保育クラブ施設数＜府内資料＞		
現状値	38施設/40小学校区 (2007年4月) 5施設	目標値	42施設/41小学校区 (2009) 0施設

(注) つるっこ学童保育クラブ（子どもセンターつるっこ施設内）を含みます。

重点事業3-3-2「放課後子ども教室」の施策と調整を図り進めます。

重点施策3 - 3 多様な体験ができる機会を充実する

～施策の取り組みの方向～

地域や学校による農業体験や水辺体験などの実施のほか、子どもが自ら考え、自分達で主体的に活動できる体験の場を、子ども達の行動圏内に整備します。

～成果指標～

成果指標	現状値	目標値
小学生～中学生の保護者のうち、野外体験やボランティアの活動に参加した子どもを持つ保護者の割合<市民意識調査>	27.4%	60%

重点事業3-3-1 子どもセンター整備

事業概要	・子育て家族や、様々な年齢の子どもが集える子どもセンターの整備を進めます。		
目標	子どもセンター数<府内資料>		
現状値	2施設	目標値	5施設（事業着手・検討を含む）

重点事業3-3-2 放課後子ども教室

事業概要	・地域の中で最も身近な小学校の施設を利用し、すべての子どもたちが放課後にあそびやスポーツ、文化活動など様々な体験ができる放課後子ども教室を、地域と協力しながら作ります。		
目標	放課後子ども教室設置小学校数<府内資料>		
現状値	0校	目標値	14校

重点事業3-3-3 子どもの体験活動支援

事業概要	・子どもが自然の中で遊ぶことができる冒険遊び場を運営する民間団体を支援するとともに、青少年施設のカリキュラムを充実します。		
目標	冒険遊び場の数<府内資料>		
現状値	3箇所	目標値	6箇所

(2) 町田市基本構想・基本計画(抜粋)

基本目標 活躍する人が育つまちをつくる

重点目標 1 誰もが地域や社会で輝ける環境をつくる

個別目標（1）充実した時間をすごせる機会を増やす

- ・様々な活動をする機会が得られている
- ・様々な文化や芸術に触れることができている
- ・多くの人が、好きなことや生きがいをもっている

個別目標（2）地域や社会で活動できる機会を増やす

- ・地域活動、社会活動により地域が活性化している

重点目標 2 知識や能力を生かし、社会で活躍できる人を育てる

個別目標（1）意欲や能力のある人の起業を促進する

- ・市内の企業活動が活発になっている
- ・市内で働く市民が増えている

個別目標（2）知識社会に対応した生涯学習を活発にする

- ・市民が、仕事や職業に求められる知識や技術を身につけることができている
- ・ＩＴ（情報技術）を使える人が増えている

重点目標 3 次世代の社会を担う人を育てる

個別目標（1）子どもが健やかに育つ環境をつくる

- ・子育てしやすい環境が整っている
- ・地域が子育てを見守っている
- ・子どもどうしが触れあっている
- ・子どもへの虐待がない
- ・子どもが増えている

個別目標（2）子どもが様々な体験ができる機会をふやす

- ・子どもが自らの目標を見つけている
- ・子どもが自ら進んでいろいろなことに挑戦している
- ・子どもが地域社会との関わりを持っている

（3）町田市子どもマスタートーブラン

策定の経過

子どもを取り巻く社会状況の変化に伴い、子どもと子育て家庭への支援に対する市民のニーズが変化しており、従来の「福祉」や「教育」といった枠を超えた体制での施策推進が必要となっています。こうした状況を受け、子ども行政一元化を実施するとともに、町田市としての子ども施策の基本的な方向性を示すために「子どもマスタートーブラン」を策定しました。

- ・2003年11月 学識経験者、関連機関代表、公募市民等で構成される町田市子どもマスタートーブラン審議会に「マスタートーブランのあり方」を諮問。
- ・2004年 8月 「子どもマスタートーブラン公聴会」を開催。45名の市民が参加。
- ・2004年10月 審議会が「子どもマスター・プラン（案）」を市長に答申。
- ・2004年12月 子どもマスタートーブランを策定・公表。

審議会の開催状況

- ・審議会（5回）
- ・専門部会（第1、第2、第3） 延べ24回（各8回）
- ・プランの当事者である子どもの意見を反映させるために設けられた「子ども委員会（公募の中高生で構成）」（10回）
　　プラン作成の基礎資料とするための調査
- ・子どもマスタートーブラン基礎調査
- ・次世代育成支援計画調査
- ・ひとり親家庭の子育てアンケート
- ・国際結婚家庭の子育てアンケート

2003年7月に施行された次世代育成支援対策推進法（平成15年法律第120号）第8条第1項の規定に基づき、市町村行動計画策定が義務づけられることを受け、「町田市次世代育成対策推進行動計画」を子どもマスタートーブランに含め策定しました。

子どもマスタートーブランの推進

子どもマスタートーブランは、次のように推進します。

- ・計画期間は、2005年度から10年間です。5年毎に必要な見直しを行います。
- ・子ども生活部が中心となり、関連する各課がプランに基づき推進します。
- ・子どもマスタートーブランに基づく推進計画の策定、推進状況の検証、総合調整は、副市長を長とする府内組織「子どもマスタートーブラン推進委員会（府内の関連する部長・課長で構成）」が担います。
- ・特に検討が必要な事項については、関連する課の職員で構成する作業部会を設置し、検討します。
- ・進捗状況について、本書「まちだの子ども施策」で毎年公表します。

（4）子どもマスタートップランの基本理念・基本的視点・基本目標

（「町田市子どもマスタートップラン」より抜粋）

基本理念

子どもが自分らしく安心して
暮らせるまちをみんなで創り出す

すべての子どもの心身ともに安全で健やかな成長を実現することは、現代社会の重要な課題です。人間としての基礎的な資質が作られるこの時期、大人と子どもの関わりのあり方は、子どもの生涯の充実した人生に大きく影響します。

また、子どもは現在の市民であるとともに、将来の市民社会の中核となる存在です。子どもを健やかに育み、豊かな市民性を培うことは、子どもの生涯を充実させるとともに、将来の市民社会の安定と発展のためにも必要なことです。

大人中心の暮らしや社会の価値を子どもの視点からも問い合わせし、子どもを支えていく社会をみんなで創り出します。

基本的な視点

（1）一人ひとりの子どもの権利実現の視点

子どもは一人の市民です。子どもも大人の市民と同様に、自分の意見を表明することができ、決定に参画する権利があります。子ども自らが考え行動し、他者と関わりながら成長できる環境を整えていくことが求められています。

また、子どもへの権利侵害がおきた場合の救済や、やり直しの機会が保障されるように、大人や社会が受け止めていくことも大切です。

大人も子どもも相互理解を深めながら、市民として現在と未来と一緒に創っていくという視点が必要です。

（2）子どもと親がともに成長する視点

子どもとの関わりを自らの子育てで初めて体験する親が多くなっています。

これまででは、親としての自覚や知識・技術を持っていることを前提に支援が組まれてきましたが、現代の子育てには子どもが成長する時、親も新たな体験を積み重ね、ともに成長していく視点が必要です。

子育てスタート期を大切にし、その場のみの助け合いや連携に止まらず、地域での子

育て仲間の形成や地域で支え合える土壤づくりをし、子どもも親も地域の人々もともに、成長し合うことが必要です。

（3）地域の中で家族を孤立させない視点

子育ての主体は家族にあります。けれども、家族の中で解決できない時や行き詰った時に、さりげなく相談に乗ってもらったりすることがとても大きな力になるものです。一方では、子育て観・生活観などの多様化により、子育て家族と地域との結びつきに難しさを感じる市民も多くなっています。

多様な地域社会と家族との関わり方に視点を当てた地域活動が柔軟に展開されて、子育ての支え合いのできる地域社会を創ることが必要です。

（4）市民（子どもと大人）と行政の協働を進める視点

子どもに関わることは、子どもと大人が協働して取り組んでいくことが必要です。また、市民と行政は、行政がやるべきことと市民ができることの分担と協働を協議し、お互いに責任をもって事業を創り出していくことが大切です。

子どもと大人が協働することによって、当事者の視点が明確になりそれぞれの地域の実情にあった施策や活動の方向性が明らかになります。

基本目標 基本理念を実現するために、3つの基本目標を掲げました。

基本目標 : 子どもが健やかに育ち、
一人ひとり自分の中に光るものを持っている

基本目標 : 子どもが安らいでいる家族があり、
家族が地域とつながっている

基本目標 : 子どもが地域の中で大切にされている

（5）町田市子どもマスターPLANの施策体系

基本目標：子どもが健やかに育ち一人ひとり自分の中に光るものを持っている

重点目標1：子どもの遊びや体験が大切にされ、主体的に参加し意見表明できる

個別目標（1）：コミュニケーション能力を育てる

個別目標（2）：参加と意見表明の場や機会をつくる

個別目標（3）：救済とやり直しの場や機会を保障する

重点目標2：大人になっていく力をつける（市民性の形成を育む）

個別目標（1）：乳幼児期の養護の充実

個別目標（2）：幼児教育の充実

個別目標（3）：学校教育の充実

個別目標（4）：思春期の子どもの心と身体の健康教育

個別目標（5）：体験活動から学ぶこと（文化・スポーツ活動等）

基本目標：子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

重点目標1：親になる力を身につける

個別目標（1）：親スタート期を支える

個別目標（2）：子育て期を支える

個別目標（3）：男女共同の子育てを進める

個別目標（4）：親の悩みを支える

重点目標2：親が働くことを支える

個別目標（1）：保育支援

個別目標（2）：サービスの質の向上と効果的・効率的な提供の充実

重点目標3：きめ細やかな支援が必要な家族を支える

個別目標（1）：障がいのある子どもと家族への支援

個別目標（2）：ひとり親家族への支援

個別目標（3）：外国籍家族への支援

個別目標（4）：被虐待児（DV家族児童を含む）と家族への支援

基本目標：子どもが地域の中で大切にされている

重点目標1：人と人が関わりつながる場をつくる（家庭・施設・学校・地域・行政の協働）

個別目標（1）：地域の人材育成と人材活用

個別目標（2）：地元事業所・商店の関わり

個別目標（3）：体験できる場（多様な体験ができる機会を増やす）

個別目標（4）：交流できる場（子どもや子育てしている人がふれあい情報交換できる場を増やす）

個別目標（5）：子どもセンター・地域子育てセンターを中心とした地域づくり

重点目標2：一人ひとりに情報が確実に届く

個別目標（1）：子どもと親への情報の確保

重点目標3：みんなで安全・安心のまちをつくる

個別目標（1）：子どもの安全・安心の確保

個別目標（2）：子育てしやすいまちづくり

4. 子どもマスターplanに基づく2007年度の取り組み

この章は、3つの基本目標ごとに次のように構成されています。

重点目標

【重点目標の解説】

個別目標

【個別目標の解説】

【指標】<例>

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
日常生活の中で、近所の子どもと立ち話をしたり、子どもに声をかけたりすることがあると答えた市民の割合	%	22.4	33.0	30.3	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	10段階評価の評価7以上の割合。 評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。

【解説】重点目標・個別目標のうち測定可能なものについて評価指標をつけ、計画がスタートした2005年度から2007年度の数値を記載しています。他の資料から引用したものについては、出典資料とその所管課(2008年度)を記載しています。

個別目標を達成するための事業の具体的紹介<例>

【解説】この個別目標を達成するために行われた2007年度事業のうち、特長的な事業とその内容・担当部課を紹介しています。

担当:事業を担当している部・課名

この個別目標を実現するために実施している事業 <例>

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
子ども生活部	子どもセンターばあん子ども委員会	子どもセンターのルールや行事、運営等について、センタースタッフと共に考え活動している。	小学4年生～18歳	子どもセンターばあん	児童青少年課・子どもセンターばあん

【解説】この個別目標を達成するために行われている事業のうち、紙面の都合で詳しい説明をすることのできなかった事業を名称と担当課のみ掲載しています。

*事業を所管している部・課の名称は、2009年1月現在のものです。

*各事業の詳細(事業費や事業量)については、政策経営部で発行している「事務事業管理データ」で詳しくご覧になります。事務事業管理データは、「市政情報やまびこ」、各図書館でご覧いただけるほか、町田市公式ホームページからもご覧いただけます。

町田市公式ホームページ(<http://www.city.machida.tokyo.jp/>)>
市の取り組み>事務事業管理データ(2007年度版)

基本目標 子どもが健やかに育ち、一人ひとり自分の中に光るものを持っている

重点目標1 子どもの遊びや体験が大切にされ、主体的に参加し意見表明できる

【重点目標の解説】

子どもが様々な遊びや体験の中で人間関係について学ぶことができ、大人も子どもの遊びや体験が大切なことを理解できるようにします。

子どもが社会の様々なことに主体的に参加し、意見表明ができるなどを理解し、実践できるようにします。

大人が子どもの参加や意見表明について理解し、受け入れることができるようにします。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
自分の子どもが野外体験やボランティア、町内会、自治会などの活動を経験することは重要だと思う保護者の割合	%	85.3	76.8	75.3	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	10段階評価の評価7以上の割合。評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。
自分の子どもが好きなことに夢中になったり、頑張ったりしていると思う保護者の割合	%	80.8	86.1	87.1	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	10段階評価の評価7以上の割合。評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。

- 1 - 個別目標1 コミュニケーション能力を育てる

【個別目標の解説】

子どもが幅広い人間関係をつくり、意思疎通を図ることができます。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
日常生活の中で、近所の子どもと立ち話をしたり、子どもに声をかけたりすることがあると答えた市民の割合	%	22.4	33.0	30.3	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	10段階評価の評価7以上の割合。評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。
参加している町内会や自治会などの地域活動で、子ども世代と大人世代と高齢者世代が一緒にに行う活動があると答えた町内会や自治会などの地域活動に参加している市民の割合	%	51.7	54.0	52.4	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	
市立図書館の児童図書の年間貸出冊数	冊	1,083,768	1,101,345	1,079,894	数字で見る町田市立図書館の実績(町田市ホームページ) (生涯学習部図書館)	

ジュニアリーダー講座

野外活動の基礎、各種ゲームやレクリエーション活動などを通じて、地域や学校のリーダーに必要な知識等を学びます。講座は、Aコース（小4～小5、年8回の活動）、Bコース（Aコース修了者のうちの希望者、年13回の活動）、Cコース（Bコース修了者のうちの希望者、年15回の活動）の3コースで構成されています。なお、Cコースを修了した中高生の方に修了後も講座の運営にご協力をいただいています。

担当：子ども生活部児童青少年課

読書活動の推進

「町田市子ども読書活動推進計画」に基づき、「意思疎通できる論理性や感性を養う」とや乳幼児期から読書に親しむことを目的に図書の貸し出しやおはなし会を行っています。お話し会は、読書活動を行っている市民の団体にもご協力をいただいています。

生涯学習部図書館・市民部市民課(玉川学園文化センター)・市民部忠生市民センター・子ども生活部児童青少年課(子どもセンターばあん・子どもセンターつるっこ・南大谷子どもクラブ)

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
市民部	おはなし会 「おはなしぶっけ」	地域のボランティアによる読み聞かせやわらべうた、手あそび。読み聞かせ終了後は、参加者同士の交流の場。毎月第3金曜日の午前中。	0歳～2歳児とその保護者	玉川学園文化センター	玉川学園文化センター
	図書貸し出し事業	児童図書の貸し出し。平日 午前8時30分～午後5時。	主に乳幼児から小学生とその保護者	玉川学園文化センター	玉川学園文化センター
		児童図書の貸し出し。平日 午前9時～午後4時45分。		忠生市民センター	忠生市民センター
子ども生活部	ぴよぴよたいむ	ボランティアグループ『柿の木文庫』によるおはなし会。絵本・紙芝居・パネルシアターなどのおはなしや、手遊び・わらべ歌など。ぴよぴよたいむ：11回、ぱおばおたいむ：10回。	0～1才児と保護者	子どもセンター つるっこ	児童青少年課 子どもセンターつるっこ
	ぱおばおたいむ		2～3才児と保護者		
	お話会「お・は・な・し・はじまるよ」	ボランティアによる絵本、紙芝居、指人形等のお話会。「子どもと本の世界を結ぶ・親子の楽しい時間の共有・図書館の紹介・子育て中の親を地域でサポート」が活動目標。17回。	保護者同伴の幼児から18歳まで	子どもセンターばあん	児童青少年課・子どもセンターばあん
	おはなしなぁに	地域のボランティアとの協働事業。地域のおとなと子どもをおはなしを通してつなぐことが目的。23回。	保護者同伴の幼児から18歳まで	南大谷子どもクラブ	児童青少年課・南大谷子どもクラブ
	ちっちゃなおはなし箱	地域のボランティアとの協働事業。本に親しんでもらうとともに、親子で共有できる楽しい時間、場所の提供。11回。	乳幼児とその保護者		
生涯学習部	おはなし会	本に親しみをもってもらうことを目的に絵本・紙芝居・語りを行う。演目に関連した本の紹介など実施。水曜日のべ282回（6館合計）。	幼児および小学生	各図書館	図書館
	おひざでだっこのおはなし会	乳幼児とその保護者に本および図書館に親しみをもってもらうため、絵本、手遊び、わらべうたを実施。おひざでだっこ：毎月最終金曜日のべ12回、ひだまりだっこ：毎月最終木曜日のべ13回。	乳幼児と保護者	中央図書館	図書館
	ひだまりだっこでおはなし会		乳児と保護者		
	保育室 文学サロントーク・ちゃんぶいぶい	「ちいさくたって文学（ことば）だいすき！」がキャッチフレーズ。文学の初めの一歩となる絵本の読み聞かせやわらべ歌、スキンシップ遊びなどをとおして、ことばを楽しむ活動。親子で絵本を楽しむ時間や、スタッフや参加者交流（おしゃべりタイム）なども行い、親にとって安心できる場であるとともに、家庭でも絵本の読み聞かせにつながることを目標に実施。	0歳～1歳児親子	文学館	図書館・文学館

- 1 - 個別目標2 参加と意見表明の場や機会をつくる

【個別目標の解説】

子どもが家庭・学校・地域で大人を信頼し自由に意見を言うことができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
子どもセンター及び子どもクラブの子ども委員会委員数	人	118	90	107	(子ども生活部児童青少年課)	
市が実施した子どもを対象とした事業のうち子どもが企画運営に参画した割合	%	14.7	-	8.2	(子ども生活部子ども総務課)	子ども総務課が市の各課に行った調査。

子どもセンター、子どもクラブの子ども委員会

子どもセンターばあん、子どもセンターツるっこ、南大谷子どもクラブに、小学生～高校生までが参加・運営する子ども委員会が設置されています。子ども委員会では、イベントの計画、当日の運営や施設利用のルールづくりなどについての活動を行っています。

また、2009年度春に開設予定の相原子どもセンターでは、準備段階から子ども委員会を設置し、子どもの意見を取り入れた施設づくりが進められています。

担当:子ども生活部児童青少年課

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
子ども生活部	子どもセンターばあん子ども委員会	子どもセンターのルールや行事、運営等について、センタースタッフと共に考え活動している。	小学4年生～18歳	子どもセンターばあん	児童青少年課・子どもセンターばあん
	子どもセンターツるっこ子ども委員会	子ども委員会の子どもたちが、つるっこをよりよくするための話し合いや盛り上げるためのイベントを企画・運営する。	小学3年生～18歳	子どもセンターツるっこ	児童青少年課・子どもセンターツるっこ
	「BDG」ライブ	中高生バンドクラブ「BDG」が企画運営し、つるっこで練習しているバンドに参加募集をし実施しているライブ。	幼稚～大人		
	南大谷子どもクラブ子ども委員会	子どもクラブのルールや行事の企画・運営について、スタッフとともに考え、実施していくことを目的として活動している。のべ30回。	小学4年生以上18歳まで	南大谷子どもクラブ	児童青少年課・南大谷子どもクラブ
	創作童話募集	市内小・中・高校生から創作童話の募集と優秀作品の発表。	小中高校生	ひなた村	ひなた村
生涯学習部	子ども講座1（伝えるアート「未来ポスト」）	制作を通して、美術と美術館に親しむ。今日の存在証明書としての絵や足型にサインや日付を入れ、小包にして指定日に届く「未来ポスト」へ入れる。	小学生	国際版画美術館・アトリエ	国際版画美術館

- 1 - 個別目標3 救済とやり直しの場や機会を保障する

【個別目標の解説】

子どもが悩んだときに気軽に相談するところがあり、立ち直りを支えることができるようになります。

e - ラーニング

教育委員会では、桜美林大学と連携し、不登校の児童・生徒が少しでも社会とのかかわりがもてるような場を提供するとともに、学習の支援を通して学校復帰できるよう取り組んでいます。その具体策のひとつが、「e - ラーニング事業」で2007年度から実施しています。

e - ラーニングとは、インターネットなどの情報技術を利用した学習法で、時間や場所を問わずにいつでも学ぶことができるという利点があります。

対象は、小学生と中学生の不登校の児童・生徒です。児童・生徒が、教育委員会とネットワーク多摩・桜美林大学が運営するサイト「学びの広場」にアクセスし、配付された専用IDとパスワードを入力することで、e - ラーニングの使用が可能となります。サイト内では、5教科の学習に加え、学習意欲を引き出すデジタルコンテンツが掲載されています。

また、桜美林大学の教授や学生が、電子メールによる対話や対面式セミナー等を実施することで、学習や登校を支援しています。

担当:学校教育部指導課

ここなび（こころのナビゲーション）

「ここなび（こころのナビゲーション）」は、社会福祉法人町田市社会福祉協議会が運営している小学生から高校生までのいろいろな悩みごとに答えるページです。このページでは、子どもからの質問や相談をもとに相談員が「友だち」、「恋愛」、「学校」などの6つのテーマの「Q & A」を作成している他、季節に応じた特集記事も掲載しています。

担当：社会福祉法人町田市社会福祉協議会

重点目標2 大人になっていく力をつける（市民性の形成を育む）

【重点目標の解説】

子どもが成長段階に応じた様々な体験の中で社会について学び、社会の一員としての自覚を持つことができるようになります。

- 2 - 個別目標1 乳幼児期の養護を充実させる

【個別目標の解説】

乳幼児とその親が精神的に安定した状態で生活を送ることができるようになります。

- 2 - 個別目標2 幼児教育を充実させる

【個別目標の解説】

幼児を持つ親が様々なプログラムの中から教育方法を選択することができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
幼稚園預かり保育実施幼稚園 数	園	5	6	7	(子ども生活部子ども総務課)	市の預かり保育充実補助金の交付を受けた私立幼稚園数。

私立幼稚園の預かり保育事業への補助

幼稚園の「預かり保育」は、通常の教育課程に係る教育時間の前後や長期休業期間（春・夏・冬休み）などに、地域の実態や保護者の要請に応じて、子どもを預かるものです。

女性の社会活動の拡大、少子化や核家族化などに伴う同年代や異年齢の仲間と遊ぶ機会が減少するとともに、地域の人々との交流の機会の減少などにより、「預かり保育」へのニーズが高まってきています。町田市では、2005年度から教育時間及び預かり保育時間を合計して11時間以上、通年で開園する等の市が定める一定の条件を満たす預かり保育を実施している園に対し事業費の補助を行っています。

担当：子ども生活部子ども総務課

- 2 - 個別目標3 学校教育を充実させる

【個別目標の解説】

義務教育の対象となるすべての子どもが小学校・中学校に楽しく通えるようにします。

【指 標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
充実した学校教育を子どもに受けさせることができていると感じている保護者の割合	%	46.6	46.9	56.6	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	評価7以上の割合。評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。

小中一貫教育・町田っ子カリキュラム

教育委員会では、2008年度から市立全小・中学校を本市独自の重点カリキュラムでつなげる全市型の小中一貫「町田っ子カリキュラム」と、地域ごとに課題を明確化し、共有しながら、その解決に向けて小・中学校が連携して指導を図る地域型の「小中一貫指導推進校」のふたつの取り組みを軸とした「小中一貫教育」を実施します。「町田っ子カリキュラム」は、規範意識やコミュニケーション能力を高めながら、働くことや学ぶことの大切さを実感し、心身ともに健康で、進んで社会に関わろうとする子どもたちを育てていくことを目標にしています。また、「小中一貫教育」では、小中一貫教育指導推進校を指定し、地域や学校の実態・実情に応じた小中一貫指導計画を作成して実際的な小中連携策を行っていきます。

担当:学校教育部指導課

学校選択制度

学校選択制度は、小・中学校への入学に際し、保護者やお子さんが自ら希望し指定校以外の小学校・中学校への入学を選択できる制度です。学校を選択できる対象学年は、翌年度に入学する新小学1年生、新中学1年生で、2年生以上の児童・生徒は対象になりません。また、町田市内全域の市立小学校・中学校から受入枠の範囲内で選択できます。

担当:学校教育部学務課

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
学校教育部	小学校適応指導教室「けやき教室」	公立小学校に在籍する不登校及び不登校の傾向にある児童に対して、学校復帰の指導及び援助を目的として実施。	小学1年生～6年生	町田市教育センター	指導課・教育センター
	学校ネットワーク整備	市立小・中学校全校の学校ネットワーク環境及びパソコンの整備を図り、情報教育環境を充実。	市立小・中学校	市内小・中学校	
	小学校1年学級への生活指導補助者派遣	小学校1年生の学級で、児童が学校生活にスムーズに適応できるよう補助者を配置。	市立小学校1年の全学級	市立小学校	指導課
	特色ある学校づくり	各小中学校が「国際理解」、「地域理解」、「ボランティア活動」、「福祉体験」等を実施。	市立小中学校	市立小中学校	

- 2 - 個別目標4 思春期の子どもの心と身体の健康教育を充実する

【個別目標の解説】

思春期の子どもたちが自分の世代の心や身体について学ぶことができるようになります。

中学校給食

栄養バランスのとれた食事を提供し、正しい食習慣を身につけることにより、好ましい人間関係の育成や健康増進を目的に、2005年度から5年計画で年間4校ずつ中学校給食を提供しています。この給食は希望制で、弁当併用外注方式を採用しています。2008年度までに、中学校20校のうち16校で給食を実施し、約40%の利用がありました。

担当:学校教育部学務課

【用語解説:弁当併用外注方式】給食を希望する生徒に対し、調理業者が調理した弁当を学校に配達する給食の提供形態。家庭からの弁当を持参することも可能。

- 2 - 個別目標5 体験活動から学ぶようにする(文化・スポーツ活動等)

【個別目標の解説】

子どもが様々な活動に参加し、多くの体験を得ることができます。

【指 標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
自分の子どもが野外活動やボランティアの活動に参加した保護者の割合	%	37.3	27.1	28.0	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	*中期経営計画指標
子どもが子どもどうしで遊んだり触れ合ったりすることができる機会や場所が身近にあると感じている保護者の割合	%	55.4	53.7	56.9	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	10段階評価の評価7以上の割合。 評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。

青少年施設ひなた村

青少年の文化活動や創作活動、あそびと創造の場と機会を提供する施設です。市内で活動しているサークルやグループ等にひなた村屋内外を開放しています。カリヨンホール、レクリエーションルーム、和室、屋外炊事場があります。子どもグループの育成事業として人形劇・電気工作、遊びの各グループが、毎週ひなた村に集まり活動しています（毎年5月に募集）。また、主催事業として、縄文体験学習や、チャレンジ教室、創作童話募集など、青少年を対象とした事業を行っています。

◇所在地 町田市本町田2863

担当:子ども生活部ひなた村

大地沢青少年センター

大地沢青少年センターは町田市の西端にあり、草戸山をはじめとする山々に囲まれた自然に恵まれたところです。

施設周辺では、ムササビやリス、イノシシなどのほ乳類をはじめ、ホタルや沢ガニ、野鳥など様々な野生動物が生息しています。

東京ドーム約4.7個分、約22万平方メートルの敷地内には、野外炊事場やキャビン、キャンプ場、研修棟の他、本館内には宿泊室や音楽演奏ができるホールもあり、「親子で楽しむ森の恵み講座」「アウトドアクッキング講座」などの様々な主催事業・プログラムサービスを実施しています。

◇所在地 町田市相原町 5307-2

担当:子ども生活部大地沢青少年センター

自然環境学習会

「どんぐり」という身近でかつ、鶴見川源流域の自然環境を構成する重要な素材を取り上げることにより、生きものの不思議や豊かな自然に恵まれている地域であることの理解を深め、自分たちのふるさとを大切にする心を育んでいただくことを目的に実施しました。

「どんぐりと自然環境」をテーマにした紙芝居、どんぐり植栽体験、クヌギの観察、どんぐり拾いを行いました。

担当: 経済観光部北部丘陵整備課

町田市一周 78 kmチャレンジハイク

2泊3日かけて、町田市一周78 kmを一周するチャレンジプログラム。約35人の参加があり、町全体を感じながら、グループで協力し、達成感と満足感・自信を得ることができました。

初日は、町田市役所から都県境の境川を南下し国道246号線を北上、町田の東の縁を歩き子どもセンターつるっこまで約29kmの道のりを約11時間、二日目は、子どもセンターつるっこから町田市北部の丘陵地帯を歩き、西端の大地沢青少年センターまで約24kmを約10時間、最終日は、朝一番で町田市最高峰364m草戸山登山でウォーミングアップし、町田街道や境川を南下し約25km、歩行時間約10時間、町田市役所で感動のゴールを迎えました。

担当: 子ども生活部児童青少年課(子どもセンターつるっこ)

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
政策経営部	「人権の花」運動	児童が協力し合って花を栽培し、その成果を多くの人々に鑑賞していただく。栽培する間に講話、映画鑑賞などを通じて、思いやりの心を育み、環境に対する理解を深め、豊かな人権感覚を身につける。	小学生	本町田小 小山田小 小山小	広報広聴課（広聴係）
市民部	夏休み親子料理教室（ぼくとわたしが作るランチ）	食育教育の第一歩。自分の体を通して食材を知り、命を育む食、調理を知り、感謝の気持ちを養うことを目的に実習を行う。	親と小学生（3年生以上）	市民フォーラム	市民協働推進課・消費生活センター
子ども生活部	おやこで・あ・そ・ぼっ	親子と一緒に野外活動、工作、遊び等を楽しむ。また、親子が分かれて活動する場面を設け、子どもだけの集団遊びも行う。	年長児～小学3年生	ひなた村・大地沢青少年センター他	児童青少年課
	料理企画	お菓子、お弁当等皆で協力してのクッキング。つくる楽しさ、食べる喜び、食べ物の大切さを学ぶ。9回。	小学生～18歳	子どもセンターばあん	
	みんなで目指そう大地沢	ばあんから大地沢まで25kmを徒步で目指す。大地沢で1泊しばあんへ戻る。			
	きみのではあん	けんだま（5/17～6/23）、バスケット（8/23）、なわとび（11/15～12/15）、こままわし（2/7～3/7）の大会。異年齢集団の中で、技を磨き自信をつけるなど、楽しみながら遊びの世界を広げる。	18歳まで	子どもセンターばあん	
	楽器講座（超）初級ミュージシャン講座	中高生事業。エレキギター・エレキベース・アコースティックギター・ドラムの講座。各9回実施。	中学生～18歳		児童青少年課・子どもセンターばあん
	ナイトシネマーズ	夏休みの夕方から、外の芝生広場で行う野外映画会	幼児～18才		
	芽が出るプロジェクト	ボランティアの方による造形教室。絵本の物語から発想したものを、色々な材料や描き方で表現する。	4才～小学3年生		
	子どもセンターつるっこ子ども委員会主催事業	子ども委員会が企画、実施するイベント。『ドッヂボール大会』（毎月）、『トランジャー・ハント-2』（8/20）、『～みんなで遊ぼう～ハッピー☆クリスマス』（12/20）、『こども映画祭』（2/16）。	0才～大人		
	アウトドア'S	野外に飛び出しキャンプや長距離ハイクに挑戦する。『鶴川謎解き探検』『サマー・キャンプ』『ワインターキャンプ』など。	小学生～18才	町田市内・市外	児童青少年課子どもセンターつるっこ

基本目標 子どもが健やかに育ち、一人ひとり自分の中に光るものをもっている

	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
子ども生活部	あそぼお～や	子ども委員会の子どもたちがちゅうしんになり、地域の子どもたちと遊ぶ会として、今年度からリニューアルスタートした。全17回。		南大谷子どもクラブ 児童青少年課・南大谷子どもクラブ	
	チャレンジ・チャンピオン（大会）	毎月1回いろいろなテーマでだれでも参加できる形態での大会。いろいろなものにチャレンジする中での自己実現と友だちとの交流が目的。全12回。			
	うきうきサタデー	毎月季節にちなんだ料理活動。異年齢の子どもたちが集い集団活動の中で、自主性や思いやりなどを養い、作り上げる喜びをあじわうことが目的。全11回。			
	おりがみだいすき	毎月1回題材を変え、作って遊べるものを中心実施。ボランティアを講師として子どもたちと地域の方との交流をする目的としている。全11回。	どなたでも		
	やってみよっか	2ヶ月に1回実施。子どもクラブ応援団に協力をしているだけではなく、日頃スタッフだけではできない題材について子どもたちとともに親しむ機会を設けている。全3回。			
	新上総堀	アフリカの水の乏しい地域で井戸掘り指導をしているNPO法人スタッフを講師に招き、井戸堀体験を通じて水の尊さを考える。(全11回)	小学生以上	大地沢青少年センター及び近隣の野原(都有限地)	大地沢青少年センター
	大地沢にゲンジボタルをとばそう！	かつて大地沢に生息していたゲンジボタルを呼び戻す活動を通じて、豊かな自然環境の大切さを学ぶ。全6回。	5歳以上のこどもとその保護者	大地沢青少年センター	
	星空教室（川上村）	豊かな自然の中で、専門家の解説とともに星空を鑑賞する(1泊2日で実施)。	市内在住の小学4年～高校生	町田市自然休暇村	
	野遊び達人になろう	大地沢の山林での秘密基地作りを中心に、木登りやクラフト、自然観察等、野外でダイナミックに遊ぶ(全3回)。	市内在住の親子	大地沢青少年センター及び周辺の山林	
	けむり工房	薰製作りを学び、楽しむ(全3回)	市内在住の方	大地沢青少年センター	
環境資源部	こどもエコクラブ	次世代を担う子どもたちが、地域の中で仲間と一緒に主体的に地域環境、地球環境に関する学習や具体的な取組・活動を行う。。子どもたちの将来にわたる環境の保全への高い意識を醸成し、環境への負荷の少ない持続可能な社会を構築するため、自主的な活動が展開できるよう支援を行っている。	幼児～高校生	各家庭・学校等	環境保全課 環境計画係
	夏休み子どもエコツアーア	工場の見学を通して資源の大切さを学び、リデュース、リユース、リサイクル(3R)の必要性を実感してもらう。	小学4年生～小学6年生	東洋ガラス㈱川崎工場 東京ガス ガスの科学館	ごみ減量課
経済観光部	夏休み酪農ふれあい体験	町田市乳用牛改良事業協議会が中心となり行う酪農ふれあい体験をサポート。子ども達が市内酪農家に行き、牛に餌を与え、搾乳をする等、酪農作業を1泊2日で体験する。	小学4～6年生	市内酪農家、大地沢青少年センター	農業振興課
農業委員会	親子体験農業	農作業を通じて親子で自然に親しみ、農業の大切さや収穫の喜びを体感してもらうことが目的に親子体験農業実行委員会が行う体験農業をサポート。田植え、一番草取り、稻刈り、収穫祭、お飾り作りの全5回。	小学3～6年生	忠生公園ほか	農業委員会事務局
上下水道部	夏休み子どもフェア	子どもたちに下水道について楽しく勉強し理解を深めてもらうことを目的に、クイズや簡易実験を中心とした体験型の見学会を開催した。	小学校4年生以上とその家族	成瀬クリーンセンター	水質管理課 水再生課
文化スポーツ振興部	Jrヒップホップダンス教室	体を動かす楽しさ・集団行動や協調性を学ぶ。	小学生	サン旭町体育館	指定管理者
	夏休みこどもフェア・マッスル2007	楽しく体を動かして遊ぶことを通して、交流を深める。		総合体育館・サン旭町体育館	指定管理者・スポーツ課
	パワーアップ小学生体操教室	鉄棒・跳び箱・マット等の技術を向上する。	小学生1～3年生	総合体育館	指定管理者
	第35回子どもマラソン大会	小学生がマラソンを通じて、走る楽しさを学び、、あわせて健康維持と体力増進を図る。		陸上競技場	指定管理者・スポーツ課
	子ども講座3(さらきらビカピカ★ときめきカラフル宝箱★をつくろうよ!)	制作を通して、美術と美術館に親しむ。自分だけの特別な‘宝箱’を作る。	小学生	国際版画美術館・アトリエ	国際版画美術館
	夏期子ども講座(版画と鏡の異次元空間誕生!Part3)	制作を通して、美術と美術館に親しむ。東京学芸大学・清野泰行准教授とその研究室ゼミ生徒の指導による、版を使った制作。正方形の版木を使い、色を変えて刷り重ねるごとに版木の向きをかえてゆく「回転版画」。出来上がった作品は、指導したゼミ生徒の作品とともに8/7～12の期間、市民展示室で展示発表。	小学3～5年生	国際版画美術館・アトリエ	

基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

重点目標1 親になる力を身につける

【重点目標の解説】

妊娠期から子育て期の親が、安心して出産や子育てをするためのサービスをうけることができるようになります。

- 1 - 個別目標1 親スタート期を支える

【個別目標の解説】

妊娠期の親が精神的に安定して妊娠期を過ごし、出産を迎えることができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
妊婦健康診査の受診率 (1回目)	%	78.7	81.5	86.6	(いきいき健康部健康課)	
妊婦健康診査の受診率 (2回目)	%	72.8	78.0	82.1	(いきいき健康部健康課)	
産婦健康診査の受診率	%	93.6	93.4	94.2	(いきいき健康部健康課)	

育児支援ヘルパーの派遣

出産の後、「日中誰もいなくて心細い」、「双子なのでたいへん」等のお母さんを支援するために育児支援ヘルパーを派遣しています。対象は、市内にお住まいの方です。利用にあたっては、次のような利用時間の上限があります。申し込み先は、子ども家庭支援センター（☎710-1525）です。

- ◇ 出産し、退院した翌日から2ヶ月以内で40時間まで
- ◇ 双子は、出産日から1年以内で100時間まで
- ◇ 三つ子以上は、出産日から4年以内で156日まで
- ◇ 午前8時～午後7時までの時間帯のうち、1日1回連続して2時間以上4時間まで
- 費用 1時間820円（所得税非課税世帯・生活保護世帯の減免あり）
交通費実費。派遣日前日の午後5時以降からキャンセル料が発生します。

● サービス内容

- ・ 育児に関する援助及び助言・相談
沐浴、授乳、オムツ交換、兄姉の幼稚園・保育園の送迎等（徒歩・公共交通機関のみの利用で交通費実費）
- ・ 家事の援助（食事の準備・居室まわりの掃除・洗濯・買い物）
- ・ 健診への付き添い
* サービス内容には、制限があります。

担当：子ども生活部子育て支援課・子ども家庭支援センター

基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
いきいき健康部	母子健康手帳	妊娠・出産・各種健康診査・予防接種を記録し健康の保持増進を図る。	妊婦	健康福祉会館・各市民センター	健康課
	妊婦健康診査	妊婦の健康管理と健康の保持増進を図る。	妊婦	契約医療機関	
	妊婦歯科健康診査				
	妊産婦・乳幼児保健指導	経済的理由により保健指導を受け難い妊産婦・乳幼児に対して健康管理と健康の保持を図る。	妊産婦・乳幼児		
	母親学級			健康福祉会館	
	妊婦クラス	妊娠中の健康管理・栄養・お産の正しい知識・産後の注意・新生児の保育指導を行い、母子の健康増進を図る。	妊婦		
	ママクラスクッキング				
子ども生活部	母子保健訪問指導事業	健康相談や育児支援のために、家庭に訪問して支援を行う。	妊産婦・乳幼児	健康福祉会館より各家庭へ	子ども総務課
	若年出産家族支援 作業部会支援策の検討結果「若年出産家族の現状」の発行	2005年から2007年4月まで、町田市民病院、健康課、生涯護課、子育て支援課、子ども総務課の担当が集まり、若年世代や現代の子育て家族の問題について検討を重ね、そのまとめとして冊子を作成し、関係機関に配布した。			

- 1 - 個別目標2 子育て期を支える

【個別目標の解説】

子育て中の親が孤立感を持たずに子育てをすることができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
在宅家庭支援実施保育園数	園	21	21	21	(子ども生活部子育て支援課)	保育園の「子育てひろば事業」と「集いのひろば」事業の合計 *中期経営計画指標
子ども家庭支援センターの相談件数	件	350	899	904	(子ども生活部子育て支援課)	*中期経営計画指標

子育てひろば

在宅で子育てをされている家庭を対象に「子育てひろば」事業を行っています。市内の保育園等を会場に、親子で遊びながら子育ての楽しさを感じたり、親同士・子ども同士の交流を深め、さまざまな情報交換ができる機会を提供しています。

親子で同年齢のクラスに入り、保育園の生活を体験したり（要予約・食事代が必要です）、食事・排泄・睡眠・言葉・遊び・友だち・・・子育てのことなら何でもご相談ください。保育園の園庭の開放もしています。詳しくは「子育てひろばカレンダー」（P. 45）をご覧ください。
担当:子ども生活部子育て支援課

子育てひろば情報は、町田市公式ホームページ内 子育てひろばカレンダー・キッズページ（「イベント情報」「保育園」）でご覧いただけます。

*キッズページURL <http://www.city.machida.tokyo.jp/kids/>

子どもセンター・子どもクラブの子育て支援事業

各子どもセンター・子どもクラブも乳幼児とその保護者を対象にしたキッズアタック（ばあん）、ぽつぽんたいむ（つるっこ）、ぴっころタイム（南大谷子どもクラブ）などの子育て支援の事業を実施しています。
担当:子ども生活部児童青少年課

ショートステイ、トワイライトステイ

◇ショートステイ（おおむね 2 歳～12 歳） 保護者の病気や出産、家族の介護などで一時的に養育ができなくなった時に、家庭的な環境でお子さんを短期間お預かりする事業です。

◇トワイライトステイ（おおむね 2 歳～12 歳） 仕事等で保護者の帰宅が遅くなる時に夜 10 時までお預かりする事業です。

子ども家庭支援センター（☎710-1525）で利用相談を受け付けます。

担当：子ども生活部子育て支援課



さるびあフェスタ 2007 木登り体験

さるびあフェスタ 2007

2007 年 9 月 16 日に町田市民ホールを会場に、「わくわく・どきどき・あそびいっぱい」をテーマに工作、パン作り、本の読み聞かせ、木登り体験、ミニ S L 乗車など親と子どもが一緒に遊べるプログラムを中心としたイベントを行いました。市、財団法人町田市文化・国際交流財団等の共催ですが、町田市法人立保育園協会、町田市私立幼稚園協会、N P O 法人町田語り手の会等多くの関係団体にもご協力をいただき、約 5,000 人の参加がありました。

担当：子ども生活部子ども総務課

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
いきいき健康部	3～4ヶ月児健康診査	各健診で、乳幼児の健康増進、疾病の早期発見と保護者への育児支援を行っている。	該当する乳幼児	健康福祉会館鶴川分館	健康課
	6～7ヶ月児健康診査			契約医療機関	
	9～10ヶ月児健康診査			健康福祉会館他3箇所	
	1歳6ヶ月児健康診査			健康福祉会館鶴川分館	
	3歳児健康診査				
	乳幼児経過観察健診	各健診で、乳幼児の健康増進、疾病の早期発見と保護者への育児支援を行っている。	該当する乳幼児	健康福祉会館	
	発達健康診査			契約医療機関	
	妊婦・乳幼児精密健診				
	育児学級	母子の健康増進を図る。	該当する乳幼児とその保護者	小山市民センター	
	離乳食・幼児食講習会			健康福祉会館	
	健康教育			市内	
	虫歯予防教室		該当する乳幼児	健康福祉会館	
	乳幼児栄養食品支給		該当する乳児	健康福祉会館他各センター	
	定期予防接種	定期予防接種・BCG接種・予防接種助成			
	未熟児養育医療	未熟児が満1歳までに入院養育を必要とする場合、入院医療助成のための医療証の申請を受理して東京都に進達する。	2000g未満で出生した乳児等	健康福祉会館	

基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
子ども生活部	交流スペースの開放	ほっとしたいとき、誰かと話をしたいとき、悩んでいるとき、子育て中の親子が自由に交流する場を提供。		子ども家庭支援センター	子育て支援課・子ども家庭支援センター
	情報誌・のびっこ	子育て情報を冊子にし、3・4ヶ月健診時に健康課を通して配布。			
	ぴょんぴょんクラブ	乳幼児とその保護者に居場所を提供。リズム体操、紙芝居等。	乳幼児	本町田・森野・鶴川学童クラブ	児童青少年課
	キッズアタック	在宅で子育てをしている家庭を対象とした子育て支援。親子での遊び、子ども同士の交わり、親同士の情報交換等を通して、子育ての楽しさを感じてもらうことがねらい。38回実施。	在宅で子育てをしている家庭の親子		
	ヤンチャッチャ	保護者に見守られて、体操・工作・リトミック等を通して興味、関心をひろげながら、自分の力を発揮し、友だちとの関わりを楽しむ経験をすることがねらい。35回実施。	就園前の3歳以上の児童		児童青少年課・子どもセンターばあん
	パワーキッズ	毎回同じメンバーで活動。親も子も友達をつくり、歌・紙芝居・リトミック等色々活動するなかで、共に育ち合うことをねらいとした子育て支援事業。33回実施	就学前の4歳からの児童		児童青少年課・子どもセンターばあん
	ぽっぷんたいむ	体操・手遊び・運動遊び・工作・おはなしなど。親子で遊びながらの親・子ども同士の交流の場。	0才～幼児と保護者		児童青少年課・子どもセンターつるっこ
	ぽっぷんくっくんぐ	親子でお菓子作りを行う。親子で作る楽しさ・友だちと食べるおいしさを味わう。	2才～幼児と保護者		児童青少年課・子どもセンターつるっこ
	ぽっぷんたいむin三輪センター	体操・手遊び・運動遊び・工作・おはなしなど。地域的に離れたところへの親子遊びの出張サービス。	0才～幼児と保護者	三輪センター	児童青少年課・子どもセンターつるっこ
	げんきたいむ	主に芝生広場で、身体をつかつた集団遊びや工作などを行う。	3才～幼児と保護者		児童青少年課・子どもセンターつるっこ
	パパといっしょ	お父さんと幼児向けの、親子遊び・集団遊び・工作など。			
	ぴっころタイム	地域のボランティアの方々と一緒に、親子で楽しめるプログラムサービスの提供。親子であそびを楽しんだり、仲間作り、情報交換などが目的。全36回	乳幼児とその保護者		
	ぶちっこタイム	地域のボランティアの方々と一緒に、親子で楽しめるプログラムサービスの提供。同じ年齢の子を持つ親同士の仲間づくりや情報交換の場。全9回。	0歳～1歳3ヶ月の親子	南大谷子どもクラブ	児童青少年課・南大谷子どもクラブ
	親子でチャレンジ	地域の農家の方に協力を願い、じゃが芋をしたり季節仕事を体験する中で、喜びを感じ、親子で楽しいひとときができる場を提供している。全5回。	2歳以上の親子		
	げんきっず	親と就学前乳幼児がゲーム等を行いともに遊ぶ。	就学前乳幼児	ひなた村	ひなた村
生涯学習部	ブックスタートの応援	乳幼児におすすめの本をピックアップしたパンフレットを作成し、各図書館や保育園などで配布した。12月19日健康福祉会館で「ブックスタートおはなし会」を試行。	-	-	図書館

- 1 - 個別目標3 男女共同の子育てを進める

【個別目標の解説】

夫婦が協力して子育てをすることができるようになります。

両親学級

妊婦とその家族を対象に、妊娠・出産・産後のからだとこころの変化や父親になるための心構え等の講話や先輩パパ・ママの体験談を聴く講座を実施しました。<4回実施>

担当:いきいき健康部健康課

父子(おやこ)でチャレンジわくわくお菓子作り

父親の家事・育児参加を進めることを目的に、小学校1～3年生の子どもと父親とのおやつ作りを実施しました。 担当:市民部市民協働推進課・男女平等推進センター

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
市民部	男性のための料理教室 お父さんも作ってみよう	料理づくりを通して、男性の家事・育児参加への意識の促進及び生活の自立を支援した。和風明太子オムレツ・簡単ちらし寿司づくり。	男性	市民フォーラム	男女平等推進センター
子ども生活部	パパといっしょ	お父さんと幼児向けの、親子遊び・集団遊び・工作など。	3才～幼児と保護者	子どもセンターつるっこ	児童青少年課子どもセンターつるっこ

基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

- 1 - 個別目標4 親の悩みを支える

【個別目標の解説】

子育て中の親が悩みや不安について身近な場所で気軽に相談できるようにします。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
育児について気軽に相談できる相手がいなかつたと答えた保護者の割合	%	13.0	2.2	1.9	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	

地域子育てセンター

子ども家庭支援センターのブランチ（枝）として市立の7保育園が、地域での育児相談や様々な子育ての悩み事の相談に応じています。また、子育てサークルの場を提供したり、サークル活動に保育士を派遣する等の専門知識を活かした事業を行っています。

- ・原町田地域：市立町田保育園
- ・本町田地域：市立本町田保育園
- ・森野地域：市立森野保育園
- ・堺地域：市立こうさぎ保育園
- ・南地域：市立金森保育園
- ・鶴川地域：市立大蔵保育園
- ・忠生地域：市立山崎保育園

担当：子ども生活部子育て支援課

子育て支援ネットワーク連絡会

児童が虐待の発生予防から早期発見・対応、アフターケアに至るまでの総合的な支援を行うため福祉・医療・保健・教育・警察等の関係機関で構成されているネットワークです。関係機関と地域が一体となって、要保護児童を支援するために、情報交換・支援の具体策の検討などを地域ごとに定期的に行ってています。

担当：子ども生活部子育て支援課・子ども家庭支援センター

健康課の相談（乳幼児・母性相談、来所相談、電話相談）

乳幼児とその保護者を対象に、発育・発達、育児方法や食事、虫歯予防、家族の健康について、関係する専門の職員による相談を行いました

担当：いきいき健康部健康課

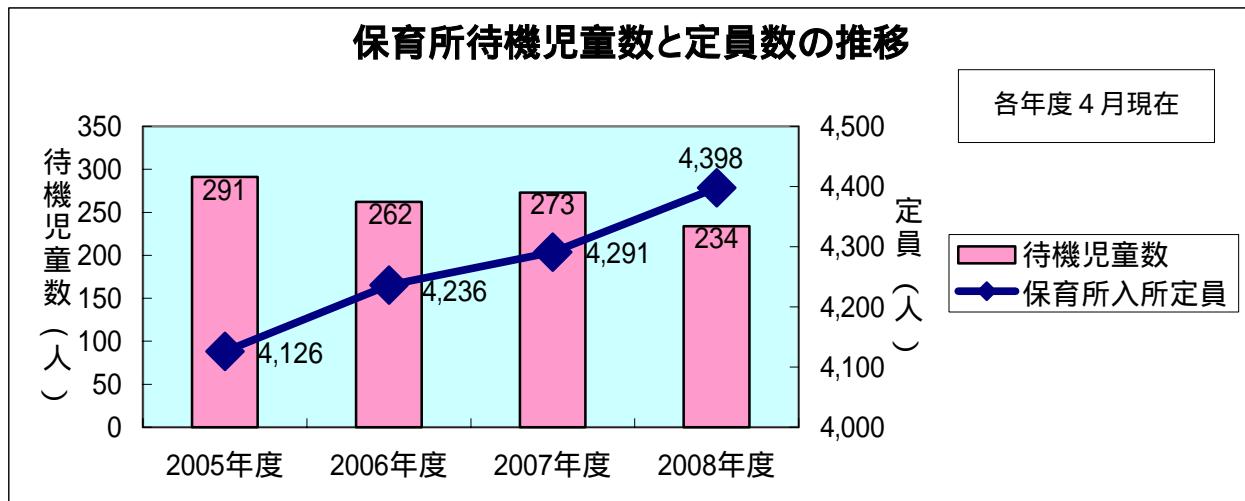
この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
いきいき健康部	乳幼児・母性相談	発育・発達、育児方法や食事、虫歯予防、家族の健康について、関係する専門職が相談に応じる。	乳幼児とその保護者	市内6会場	健康課
	来所相談			健康福祉会館	
	電話相談				
子ども生活部	相談（子ども家庭支援センター）	0歳から18歳までのお子さんとその家庭からの相談	0～18歳		子育て支援課・子ども家庭支援センター
	子育てママのしゃべり場	地域の中で関わる場をもてず育児不安やストレスを抱えて悩んでいるに、共感・共有の場を提供することで、様々な子育て支援につながり、虐待予防及び育児不安の解消につなげる。	子育て中の母親	子ども家庭支援センター	
	啓発冊子・子育て奮闘記	児童虐待の防止・予防のための啓発冊子			
	子育てひろば（育児相談）	在宅で子育てをしている家庭を対象に、子育ての相談に応じる	在宅子育て家庭	市内36保育園	

重点目標2 親が働くことを支える

【重点目標の解説】

子育て中の親が就労と子育てを両立することができるようになります。



保育所の入所待機児の解消

町田市では、保育所待機児の解消が大きな課題となっています。待機児童数は、前ページの表のように推移しています。町田市では、保育所の新規開設、定員増などの施策を進めていますが、なお、待機児童の解消には至っていません。

今後とも早期の待機児ゼロを目指し、施設・制度等の支援策を積極的に進めていきます。

担当:子ども生活部子育て支援課

- 2 - 個別目標1 保育支援

【個別目標の解説】

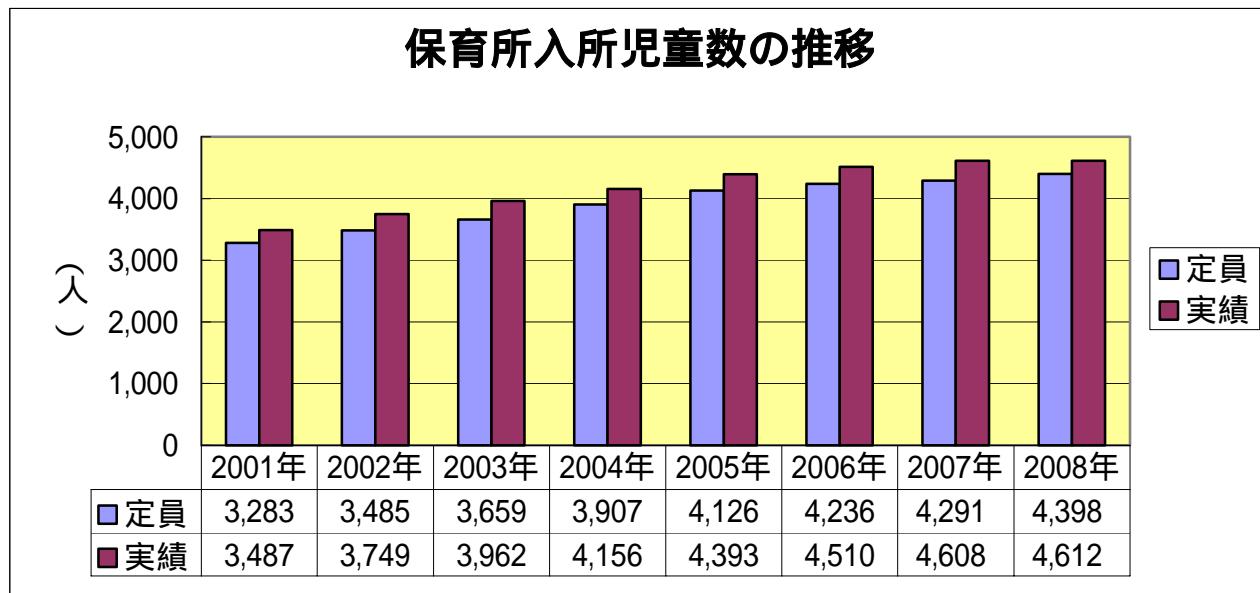
子育て中の親が子どもを預ける様々な保育サービスを選択することができ、安心して働くことができるようになります。

【指 標】

指標名	単位	2005年度実績値	2006年度実績値	2007年度実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
保育所待機児童数	人	291	262	273	(子ども生活部子育て支援課)	各年度4月現在。2008年4月は、234人。 *中期経営計画指標
保育所定員数	人	4,126	4,236	4,291	(子ども生活部子育て支援課)	各年度4月現在。 *中期経営計画指標
認可外保育施設入所児童数	人	174	158	185	(子ども生活部子育て支援課)	*中期経営計画指標
学童保育クラブが設置されている小学校区の割合	%	35/40	36/40	38/40	(子ども生活部児童青少年課)	*中期経営計画指標
大規模学童保育クラブ数	施設	5	5	5	(子ども生活部児童青少年課)	*中期経営計画指標
預かり保育実施幼稚園数 (再掲)	園	5	6	7	(子ども生活部子ども総務課)	*中期経営計画指標
ファミリーサポートセンター利用件数	件	14,898	15,693	15,056	(子ども生活部子育て支援課)	

基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

【保育園在籍児童数の推移】(各年4月1日現在)



【保育園在籍児童数の推移（各年4月1日現在）】

区分	年度	定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計	入園割合
法人立	2002	2,750	259	407	516	580	611	589	2,962	107.7
	2003	2,894	283	428	532	607	639	650	3,139	108.5
	2004	3,142	294	458	574	636	683	702	3,347	106.5
	2005	3,361	322	515	633	697	723	708	3,598	107.1
	2006	3,471	307	548	658	719	756	739	3,727	107.4
	2007	3,526	331	555	667	734	750	771	3,808	108.0
	2008	3,633	344	555	678	744	757	749	3,827	105.3
公立	2002	735	29	81	116	166	194	201	787	107.1
	2003	765	35	90	123	169	199	207	823	107.6
	2004	765	34	89	122	168	191	205	809	105.8
	2005	765	36	88	121	170	185	195	795	103.9
	2006	765	29	87	120	164	186	197	783	102.4
	2007	765	33	91	124	166	192	194	800	104.6
	2008	765	33	90	120	158	185	199	785	102.6
合計	2002	3,485	288	488	632	746	805	790	3,749	107.6
	2003	3,659	318	518	655	776	838	857	3,962	108.3
	2004	3,907	328	547	696	804	874	907	4,156	106.4
	2005	4,126	358	603	754	867	908	903	4,393	106.5
	2006	4,236	336	635	778	883	942	936	4,510	106.5
	2007	4,291	364	646	791	900	942	965	4,608	107.4
	2008	4,398	377	645	798	902	942	948	4,612	104.9

一時保育

冠婚葬祭等の急な用事、保護者・家族の入院・通院・介護等で家庭での保育ができない、リフレッシュに時間がほしい等の理由により、一時的に児童を保育園で預かる制度です（事前登録が必要です）。

担当：子ども生活部子育て支援課

病児・病後児保育

病児保育 病気にかかっている児童を医師の指示に基づいて医療機関に併設した専用の施設で一時預かり保育します。

病後児保育 「病気回復期」にあり、医療機関による治療の必要はないが、安静の必要がある児童を保育園に併設した専用施設で一時預かり保育します。

- 対象 市内在住のおおむね 1 歳から小学校 3 年生まで（病児保育は小学校 2 年生まで）。市外在住でも、市内の認可保育園在園児は利用できます。

- 事前に利用登録が必要です。

担当:子ども生活部子育て支援課

休日保育

■ わかば保育園で実施しています。年末・年始（12月29日～1月3日）は除く休日や祝日に仕事や介（看）護、または冠婚葬祭などの社会的理由でお子さんの保育ができない場合にご利用いただけます。事前の利用登録が必要です。

- 対象 市内在住（町田市に住民登録のある方）でおおむね 1 歳から小学校就学前までのお子さん

担当:子ども生活部子育て支援課

年末保育

■ 市立保育園 2 園で実施しています。12月29日、30日に保護者の方が就労のため家庭で保育できない場合にご利用いただけます。事前の利用申請が必要です（定員あり）。

- 対象 市内在住（町田市に住民登録のある方）で保護者が就労のため保育できない、12月1日現在満 6 ヶ月から就学前までのお子さん。町田市外に在住でも、町田市内の認可保育園の在園児は利用できます。

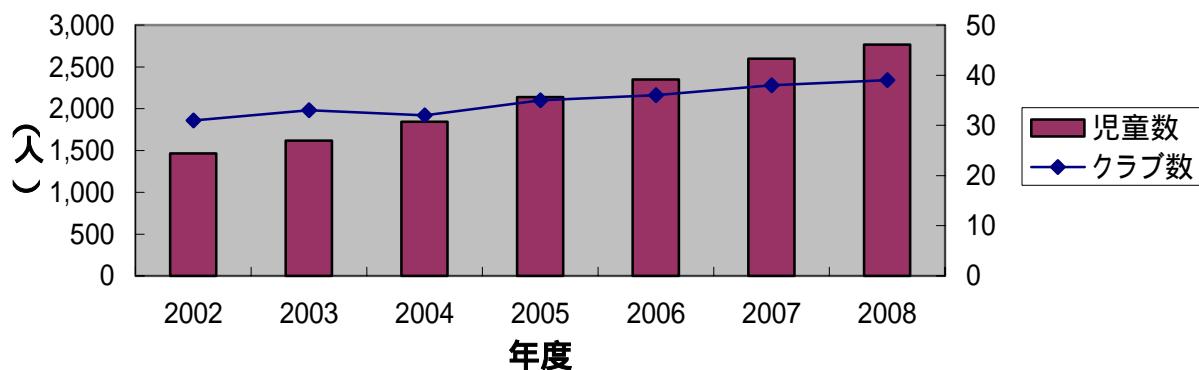
担当:子ども生活部子育て支援課

学童保育クラブ

学童保育クラブでは、放課後帰宅しても保護者が仕事などで子どもの世話をする人がいない家庭の、市内に在住する小学校 1 年生から 3 年生（ただし、障がいのある児童については、市長が特に必要と認めたときは 6 年生）までの児童を預かり、保育しています。現在、1 小学校区 1 学童保育クラブを目標に整備を進めていますが、近年は利用希望が多く、施設の新設とともに狭隘化の解消が課題となっています。

担当:子ども生活部児童青少年課

学童保育クラブ数と入会児童数の推移



基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

【学童保育クラブ入会児童数の推移】(各年4月1日現在)

年度	公立		公社		社会福祉協議会		委託		合計	
	クラブ数	児童数	クラブ数	児童数	クラブ数	児童数	クラブ数	児童数	クラブ数	児童数
2002	8	407	10	399			13	659	31	1,465
2003	9	492	11	436			13	689	33	1,617
2004	8	510	11	541			13	792	32	1,843
2005	7	393			13	729	15	1,016	35	2,138
2006	7	435			13	785	16	1,130	36	2,350
2007	7	478			13	840	18	1,279	38	2,597
2008	6	446			13	886	20	1,434	39	2,766

* 公社（町田市学童保育公社）所管の学童保育クラブは、2005年4月に（社）町田市社会福祉協議会に移管されました。

ファミリー・サポート・センター

子育てを支援するための「子育ての手助けをしてほしい人と（依頼会員）」と「子育ての協力をしてくれる人（援助会員）」との相互援助活動を行う会員組織です。

活動内容は、保育園・幼稚園の開始前または終了後の保育、保育園・幼稚園等への送迎、その他、子育てのための必要な援助（保育）等で、補助的、臨時的なものです。

担当：子ども生活部子育て支援課

- 2 - 個別目標2 サービスの質の向上と効果的・効率的な提供の充実

【個別目標の解説】

保育施設がサービスの質の向上と外部評価を行い、その結果が利用者に提供されるようにします。

金森保育園の「ISO9001」認証取得と普及

保育サービスの質の向上と利用者の満足度の高い保育園経営を行うため、公立保育園におけるISO9001の認証取得の取り組みを進め、2007年3月に市立金森保育園が認証を取得了しました。2007年度以降は、金森保育園でのISOのノウハウを他の市立保育園に広めるためにISO連絡会を開催しています。

担当：子ども生活部子育て支援課

【用語解説：ISO9001】ISOは、国際標準化機構が制定する国際規格です。「ISO9001」は、この国際規格のひとつでQMS（クオリティマネジメントシステム=組織の業務の品質を向上するための仕組み）と呼ばれます。QMSは業務の改善、効率化や新たな事業等の実施を目標に顧客のニーズを踏まえながら、業務の標準（Standard=スタンダード）をつくることから始まります。この標準に基づき、業務や事務を実施し、実施後に成果・効果の測定、分析を行います。その結果に基づいて改善を行い、改善点を加えた新たな業務標準をつくります。このサイクルを繰り返しながら業務を管理することがQMSです。

重点目標3 きめ細やかな支援が必要な家族を支える

【重点目標の解説】

きめ細やかな支援が必要な子どもと家族が必要な支援を必要な時に受けることができるようになります。

- 3 - 個別目標1 障がいのある子どもと家族への支援

【個別目標の解説】

障がいのある子どもと家族がいろいろな生活の場面で必要な時に必要な支援を受けることができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
障がい児通園促進事業の対象となった幼稚園児数（のべ）	人	824	917	1,088	（子ども生活部子ども総務課）	

子ども発達センターすみれ教室

すみれ教室は、発達に遅れや心配のある就学前の乳幼児に対して、専門的な指導により、身体的・精神的な発達を助長し、基本的な生活習慣、社会への適応を図ること、その保護者を支援することを目的としています。

その沿革は、1971年8月、心や身体にハンディキャップのある乳幼児の保護者から「市内に心身障がい児のための生活並びに訓練の場を作りたい」との切実な願いがきっかけとなって、同年12月「町田市心身障害児を守る会（すみれ会）」の結成とともに、市から福祉会館の一室と機械器具の提供を受けて保護者運営の教室「すみれ教室」としてスタートし、障がいのある子どもを持つ親同士の連帯をつくる場としての役割をも果たしてきました。

その後、すみれ会から「未就学児の唯一の施設であるため一層の発展を」との要望を受け、1972年8月、旧さるびあ図書館を改造、移転。1972年10月に町田市療育機関として位置づけされ、職員と施設の充実を図り、1983年4月の「すみれ会館」の完成により全面移転し、親子通園施設として今日に至っています。

この30数年の間に、通園児の増加・低年齢化・幼稚園や保育園の受け入れの拡大、相談部門のニーズの増加などに対し、教室の規模は大きくなりサービス内容も多様になってきました。2004年4月、事業の一部を定員40名の措置通園部門（児童福祉法第7条に定める知的障害児通園施設）として開設し、施設の名称も「町田市子ども発達センターすみれ教室」と改めました。

障害者自立支援法の施行に伴い、2006年10月に児童福祉法が改正され、措置制度から契約方式に変わりました。これに伴い、当センターの措置通園部門も認可通園部門へ呼称を変更しました。

◆所在地 町田市中町2-13-14

担当:子ども生活部すみれ教室

障がい児の幼稚園通園の促進

医療機関等で特別な配慮・個別的な配慮を必要とするとの診断を受け入れている市内の私立幼稚園に対し、受入の人数に応じて経費の一部を市が負担しています。

担当:子ども生活部子ども総務課

基本目標 子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

【すみれ教室通園児童数の推移（2004年度以降）】（人）

	親子通園部門	相談部門	認可通園部門
2004年度	132	409	40
2005年度	124	414	40
2006年度	119	491	40
2007年度	106	523	40

* 措置通園部門は、2006年10月より認可通園部門へ呼称を変更しています。

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
学校教育部	特別支援教育	新しい障がい教育－特別支援教育が2007年4月からスタートし、特別な支援を要する児童生徒に対するサポート体制として巡回指導員を派遣した。また、医師や心理療法士等の資格を有する方で構成されている特別支援教育専門家チームによる学校訪問を実施した。	市立小・中学校	市内小・中学校	指導課・教育センター

- 3 - 個別目標2 ひとり親家庭への支援

【個別目標の解説】

ひとり親家族が自立し、経済的な不安を持つことなく生活や子育てすることができるようになります。

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
子ども生活部	ひとり親家庭等への医療費助成	18歳に達する日以降の最初の3月31日（児童に障がいがある場合は20歳未満）までの児童のいるひとり親家庭及び父または母に一定の障がいのある家庭に対し、保険診療の自己負担分の医療費の全額または一部を助成（所得制限があり）。			子ども総務課
	母子福祉資金の貸付	母子家庭の方が経済的に自立し、安定した生活を送るために必要とする資金の低利または無利子での貸付。	市内に6ヶ月以上住所を有する配偶者のいない女性で20歳未満の児童扶養している方		子育て支援課
	女性福祉資金の貸付	配偶者がいない市内に6ヶ月以上お住まいの女性が経済的に自立し、安定した生活を送るために必要とする資金の貸付（支給要件あり）。			
	ひとり親家庭資格取得講習受講料の助成	ひとり親家庭の自立を支援するために20歳未満の子を扶養しているひとり親家庭の親が就労に関する各種資格取得のために学校や講習等を受講した場合の授業料・講習料の一部補助。			
	ひとり親家庭へのホームヘルパー派遣	義務教育終了前の児童のいるひとり親家庭で、日常生活に著しい支障のある方に、ホームヘルパーを派遣（主に育児）。			

- 3 - 個別目標3 外国籍家族への支援

【個別目標の解説】

外国籍家族が言語・文化の違いやコミュニケーション不足についての不安を持つことなく生活や子育てをすることができるようになります。

外国語版子育て情報パンフレット

子育てについての相談、保育園、幼稚園、各種手当、健康診査等の子育て支援についての情報を簡潔にまとめた英語、中国語のパンフレットを財団法人町田市文化・国際交流財団（国際交流センター）とボランティアにご協力をいただき作成し、外国人登録の窓口等で配布しています。2007年度は、新たに韓国・朝鮮語版を作成し、配布を始めました。

担当：子ども生活部子ども総務課

- 3 - 個別目標4 被虐待児(DV家族児童を含む)と家族への支援

【個別目標の解説】

虐待を受けた子どもと子どもを虐待した家族が立ち直るための支援を受けることができるようになります。

子ども家庭支援センター

子どもや家庭の問題に総合的に対応する相談機関です。0歳から18歳までのお子さんとその家庭のあらゆる相談に応じます。児童虐待をはじめとする子どもを取り巻く様々な問題に対処するため、関係機関や地域と緊密な連携をとりながら子育てを支援しています。

2006年度には、児童虐待の防止・予防のための啓発冊子「子育て奮闘記～しつけ それとも虐待！？」を作成し、配布しました。

ショートステイ、トワイライトステイ(P. 31)、育児支援ヘルパー派遣(P. 29)等のサービスを行っています。また、センターには、小さいお子さんが親子で過ごせる交流スペースもあります。

◆ 所在地 町田市森野3-11-16

担当: 子ども生活部子育て支援課 子ども家庭支援センター

【子ども家庭支援センターの相談件数の推移】

年度	被虐待	養護	不登校	非行	発達	性格・その他	計
2002	84	189	39	9	10	11	342
2003	82	175	18	7	33	123	438
2004	81	215	30	7	14	69	416
2005	78	175	34	3	4	56	350
2006	97	318	138	10	14	322	899
2007	81	278	136	10	32	367	904
(うち電話相談件数)	13	157	106	3	20	239	538

基本目標 子どもが地域の中で大切にされている

重点目標1 人と人が関わりつながる場をつくる(家庭・施設・学校・地域・行政の協働)

【重点目標の解説】子育てをしている親と地域の人が、子どもは地域の支えあいの中で育つということを理解できるようにします。

子どもと子育てをしている家族が地域の人と絆を深めることができるようにします。

- 1 - 個別目標1 地域の人材育成と人材活用

【個別目標の解説】

青少年活動を指導することができる大人と子ども（ジュニアリーダー等）が地域で育ち、地域で青少年を対象とした活動が活発に行われるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
子どもサークルリーダー研修会参加者数（のべ人数）	人	332	146	248	（子ども生活部児童青少年課）	

子どもサークルリーダー研修会

市内在住・在勤・在学の18歳以上の青少年に関する活動を実施している方を対象とした地域における青少年指導者の育成講座です。7月・10月・11月に子どもに向けた講義や実技などを計13回のカリキュラムで実施しました。
担当:子ども生活部児童青少年課

アダプト・ア・ロード／トンネル擁壁への壁画作成

市が管理する道路施設等で自発的な管理活動を希望する市民活動団体と協定を締結して活動していただいている。参加対象は、限定していませんが、この事業の一環として、市内の中高生が道路用地を利用して花壇づくりを手がけています。また、落書きで汚れたトンネルの擁壁に、市内大学の学生が壁画を作成して、青少年健全育成に資する環境づくりに取り組みました。
担当:建設部道路管理課・市民協働担当

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
政策経営部	さがまちブレ・コンソーシアム大学『子どもコーチング基礎講座』	子どもとのコミュニケーションのコツを学び、地域が一丸となった子どもの育成への取り組み推進を行う。「コーチングとは何か」「子どもの心を理解する」「子どもの意欲を引き出す」の3テーマ（全3回）で実施。	大学生以上 ※子育て中の親を含む	桜美林大学プラネット 淵野辺キャンパス	企画調整課
子ども生活部	ジュニアリーダー講座（再掲）	野外活動の基礎、各種ゲームやレクリエーション活動などを通じて、地域や学校のリーダーに必要な知識を学ぶ講座を実施した。Aコース8回、Bコース13回、Cコース17回。	小学4年生～中学生	ひなた村・大地沢青少年センター他	児童青少年課
	子どもセンターつるっこ運営委員会	子どもセンターつるっここの運営に関わる事項について調査・検討。	市民・子ども委員	子どもセンターつるっこ	児童青少年課・子どもセンターつるっこ

- 1 - 個別目標2 地元事業所・商店の関わり

【個別目標の解説】

子どもや子どもを持つ親が地元事業所・商店会・商店を利用した子育て支援を受けることができるようになります。

子どもセンターばあんの「子どもまつり」

子どもセンターばあんでは、子どもまつりとして「たんじょう祭」「夏祭り」「冬祭り」、(3大祭りと呼んでいます)を毎年行っています。このお祭りは、子ども委員会、運営委員会だけではなく、商店街・自治会・民生委員・郵便局・「ばあんの会」等地域の方々との協同による、地域のイベントとして実施しています。

担当:子ども生活部児童青少年課・子どもセンターばあん

食育「地元商店街での買い物」

市立町田保育園では、食育の一環として、ほぼ毎日、給食やおやつの材料を地元の商店に買い物に出かけます。食事の材料を直接目にするだけではなく、商店の方とのコミュニケーションや商店街との協働も期待されます。

担当:子ども生活部子育て支援課・町田保育園

- 1 - 個別目標3 体験できる場(多様な体験ができる機会を増やす)

【個別目標の解説】

子どもが様々な体験や人との関わりから学び成長していくことができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
冒険遊び場の数	箇所	3	3	3	(子ども生活部児童青少年課)	*中期経営計画指標
野外活動やボランティアの活動に参加した子どもの割合 (再掲)	%	37.3	27.1	28.0	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	*中期経営計画指標

あそびのはらっぱ・まなびとあそびのたいけんひろば

青少年活動の指導を重ねてきた地域の方を指導者に、「生活(衣・食・住)を実感する」をテーマに実施しました。家庭での試みとは異なり、仲間と一緒に物をつくる楽しさを感じる体験、道具を使って自分の手でものを作り上げる等の直接体験の機会となりました。

担当:生涯学習部生涯学習課

国際理解教育の推進・国際交流事業

国際理解教育の一環として学校ネットワークを活用し、児童・生徒が電子メールやインターネットを利用したテレビ会議を通して外国人と直接会話をする交流事業を行っています。会話だけでなく、文化や風土、教育環境の相違などを経験する機会ともなっています。

担当:学校教育部指導課

地球一日博物館

今日の環境問題について関心を深めてもらうきっかけ作りの場として、①ソーラーカーや天然ガス自動車、電気自動車などの先進技術の展示 ②地球環境をテーマとした児童絵画や市内の小学校、団体での取り組みの紹介 ③環境映画の上映 ④捨てる材料を使った造形遊び、環境クイズ、各種ゲームなどを行いました。 担当:環境資源部環境保全課

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
企画部	さがまちブレ・コンソーシアム大学『みんなでつくろうグリーンマップBコース』	グリーンマップの手法を活用して、子どもが楽しみながら環境を学ぶ講座を実施。グリーンマップ作りを通して環境への意識付けを行った。	小学校高学年	玉川大学	企画調整課
子ども生活部	のびっこあそび隊	子どもセンターのない地域に子どもセンターの遊びを紹介する。高校生がボランティアとして活動することも意図した事業。6回実施	堺地区周辺に居住する0歳~18歳までの児童	小山白山公園	児童青少年課・子どもセンターばあん
	プログラムサービス	地域の子ども会・クラス会等の団体を対象に、野外炊飯・遊びを実施	子ども会等団体	ひなた村	ひなた村
都市づくり部	忠生公園定期自然観察会	昆虫、野鳥、樹木、野草等の観察会、毎月1回	子ども・一般	忠生公園	公園緑地課
学校教育部	中学2年生の職場体験	中学2年生が事業所・団体等で連続5日間の職場体験を実施した	市立中学校2年生	市内及び近隣市の事業所・団体	指導課
生涯学習部	知ろう！作ろう！みんなおいでよ！森野分庁舎	森野分庁舎の見学と、つくって遊べるリサイクル工作を実施。町田市青少年委員の会が企画。	* 分庁舎見学 小学3年~6年 * 工作 小学1年~6年	森野分庁舎	生涯学習課
	こどもえいが会	本に親しみを持ってもらうため、映画を上映し、その関連する本を紹介した。のべ33回行った。	幼稚および小学生	中央・木曾山崎・堺図書館	図書館
	にんきものをさせ	こどものひろばの書架に、本に出てくるキャラクターに関する問題を設置し、答えを本から探し出すウォーターフラーキュイズ。年に3回、夏休み・春休み・冬休みにあわせて実施した。	幼稚および小学生	中央図書館	
	よんだことをえにしちゃお	本を読んで感じたことを絵にしてもらった読書観想画展。夏休みに作品を募集し、秋に中央図書館こどものひろばの壁面に作品を展示した。	幼稚および小学生	中央図書館	
	1日図書館員	夏休み期間中に、希望者に、図書館業務を1日体験してもらった。本の配架、カウンター業務、本の装備などを経験した。	中・高校生	各図書館	
	ヤングアダルト展	主に10代の子どもたちが描いた絵や、制作した作品を展示コーナーに展示した。	主に中・高校生	中央図書館	
	ブックトーク	それぞれ設定したテーマにあわせて、絵本・物語・知識の本を紹介した。	幼稚および小学生	中央図書館	
	中学生のハローワーク 文学館の仕事探検!	文学館の仕事を知ってもらうための取り組み	中学生	文学館	図書館・文学館
文化スポーツ振興部	ことばであそぼ! 夏休みに作るポストカードブック	ことばを大事にする絵手紙を描き、それを束ねて自分だけのポストカードを作る。	小学生	文学館	
	ことばであそぼ! 子ども俳句教室	5・7・5のことば遊びを楽しむ。	小学3~6年生	文学館・薬師池芹が谷公園他	
	ことばであそぼう! 百人一首大会	日本の伝統かるた、百人一首を楽しみながら日本の古典文学である和歌に親しみ学ぶ機会とした。	小学生~中学生	文学館	
	子ども講座1(伝えるアート「未来ポスト」)	制作を通して、美術と美術館に親しむ。今日の存在証明書としての絵や足型にサインや日付を入れ、小包にして指定日に届く「未来ポスト」へ入れる。	小学生	国際版画美術館・アトリエ	国際版画美術館
	夏期子ども講座(版画と鏡の異次元空間誕生! Part4)	制作を通して、美術と美術館に親しむ。清野泰行東京芸大准教授と研究室ゼミ生徒の指導による、版を使つた制作。正方形の版を使い、色を変えて刷り重ねるごとに版木の向きをかえてゆく「回転版画」。出来上がった作品は、指導したゼミ生徒の作品とともに8/7~12の期間、市民展示室で展示発表した。	小学3~6年生		

- 1 - 個別目標4 交流できる場(子どもや子育てしている人がふれあい情報交換できる場をふやす)

【個別目標の解説】

子どもや子どもを持つ親が身近な場所で様々な人と気軽に交流することができるようになります。

子どもが身近な場所で気兼ねなく時間を過ごすことができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
子どもセンターの施設数	館	2	2	2	(子ども生活部児童青少年課)	*中期経営計画指標
子どもセンター・子どもクラブの1日平均来館者数	人	723	726	764	(子ども生活部児童青少年課)	子どもセンターばあん・子どもセンターつるっこ・南大谷子どもクラブ・玉川学園ころころ児童館の4館の合計を開館日数でわったもの
地域子ども教室助成団体数	団体	8	6	5	(子ども生活部児童青少年課)	

子どもセンター・子どもクラブ

「子どもの成長・発達を促す遊びの拠点」と「核家族化・少子化が進むなかでの子育て支援」を理念として、1999年5月子どもセンター1号館「ばあん」がオープン。2000年1月に「南大谷子どもクラブ」、2003年4月に「玉川学園子どもクラブころころ児童館」、2005年4月子どもセンター2号館「つるっこ」がオープンしました。乳幼児から高校生までが集える場として、来館者は「けがと弁当は自分持ち」の精神で、自分の責任で利用しています。市内に5館を目標に整備を進めており、2009年度には3号館が相原地区にオープンする予定です。また、忠生地区の子どもセンターの整備についても検討を始めています。

担当:子ども生活部児童青少年課

地域子ども教室

国（文部科学省）が、地域の「子どもの居場所」づくりのために2004年より2006年度まで実施し、2007年度からは市が助成している事業です。学校の校庭や教室を使い、地域の方がスタッフとなって、各地域の教室で様々なプログラムを行っています。

担当:子ども生活部児童青少年課

冒険遊び場への補助

冒険遊び場活動を行う団体に補助金を交付し、その活動を支援しました。2007年度は、「子ども広場 あそべこどもたち」、「野津田・雑木林の会 きつねのはらっぱ冒険遊び」、「相原冒険遊びの会」の3団体に補助金を交付しました。

【用語解説：冒険遊び場】地域の人たちを中心に運営されている子どもたちの遊びの拠点。全国で200ヶ所以上開催されています。

担当:子ども生活部児童青少年課

- 1 - 個別目標5 子どもセンター・地域子育てセンターを中心とした地域づくり

【個別目標の解説】

子どもセンターが地域の子どもの様々な活動の中心として動くことができるようになります。

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課	
子ども生活部	ぽっぷんたいむ in 三輪センター	体操・手遊び・運動遊び・工作・おはなしなど。地域的に離れたところへの親子遊びの出張サービス。	0才～幼児と保護者	三輪センター	児童青少年課・子どもセンターつるっこ	
	つるっこあいばーさりー 2	地域の協力を得た開館記念事業。	幼児～市民	子どもセンター つるっこ		
	ふれあい活動「大人も子どももみんなで遊ぼう」	青少年健全育成鶴川第三地区委員会主催のふれあい活動。昔遊び・レクゲーム・こうさくコーナーなど。				
	ちびっこあそび隊	親子での遊び、子ども同士の交わり、親同士の情報交換等を通して、子育ての楽しさを感じてもらうことをねらいとしている。子どもセンターのない地域で行う出張子育て支援事業。8回実施。	堺地区周辺に居住する、在宅で子育てをしている家庭の親子	小山市民センター	児童青少年課・子どもセンターばあん	
	子育てひろば事業	在宅で子育てをしている家庭を対象に、子育ての相談や親子の交流を図る。	在宅子育て家庭	市内36保育園	子育て支援課	
	つどいの広場事業	子育ての相談や子育て仲間の交流を図る。会員登録制・有料。		カンガルーポッケ、あじさい広場		
生涯学習部	ちいさいこむけおはなし会	絵本、手遊び、わらべうたを行い、乳幼児とその保護者に本に親しみをもってもらうための会。のべ23回実施。	乳幼児と保護者	木曽山崎図書館	図書館	
	かみしばいがやってきた！みんなおいでよ紙しばいらんどへ！！	夏休みこどもフェアとして実施。日本で生まれた文化である紙しばいを楽しむ。	乳幼児～大人 2歳児親子	文学館	図書館・文学館	
	親子であそぼ！ゆっくりしたのしくわらべうた！	わらべ歌講座の受講生の協力を得て、講座で学習したわらべ歌と軍手人形などをつかって、小さい子にとって文学の入り口とされているわらべ歌を親子で楽しんだ。	乳幼児親子	文学館		

重点目標2 一人ひとりに情報が確実に届く

【重点目標の解説】

子どもと子育て中の親が、必要とする時に必要な情報を得ることができます。

- 2 - 個別目標1 子どもと親への情報を確保する

【個別目標の解説】

子どもと子育て中の親が必要とする時に必要な情報を得ることができます。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
子育てひろばカレンダーの配布箇所数	箇所	-	132	137	(子ども生活部子育て支援課)	

子育てひろばカレンダー

「子育てひろばカレンダー」は、各保育園のいろいろなイベント情報等を市内5地域（南、町田、鶴川、堺、忠生）に分けて毎月紹介している情報紙です。掲載している保育園や各公共施設等で配布しています。また、町田市公式ホームページの「子育てひろばカレンダー」（下記URL）からもご覧いただけます。

<http://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/kodomo/hirokare/index.html>

担当：子ども生活部子育て支援課

町田市公式ホームページ・キッズページ

町田市の面積、人口、歴史、市役所の仕事、遊び場・学び場、イベント情報、相談コーナー紹介する子ども向けのホームページです（URLは下記）。

子ども生活部各課のメンバーを中心に毎月、担当者会議を開催し、キッズページの内容をより充実するための検討を行っています。

<http://www.city.machida.tokyo.jp/kids/>

担当：子ども生活部子ども総務課

子育て情報誌「のびっこ」

町田市の保育園・幼稚園、保健事業、手当・医療費助成制度、相談窓口、病院、公共施設などの子育て情報をまとめた冊子を作成し、3・4ヶ月健診の際に保護者に配布するとともに公立保育園等でもご希望の方に配布しています。 担当：子ども生活部子育て支援課

重点目標3 みんなで安全・安心のまちをつくる

【重点目標の解説】

子どもや乳幼児を育てている親が地域や家庭で安心して日常生活を送ることができます。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
今住んでいる地域が、子どもが安全で健やかに育つ環境になっていると思う市民の割合	%	39.1	33.9	32.2	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	10段階評価の評価7以上の割合。 評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。

- 3 - 個別目標1 子どもの安全・安心を確保する

【個別目標の解説】

子どもが地域や家庭で事故や事件に遭う心配をすることなく日常の生活を送ることができます。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
12歳以下の子どもの交通事故件数	件	174	176		町田市統計書 (総務部市政情報課)	
「子ども110番の家」の箇所数	箇所	5,220	5,607	5,769	(子ども生活部児童青少年課)	

子ども110番の家

子どもが危険に直面した際に緊急避難先として駆け込むことができる建物であることを示す看板の設置を各小学校PTAや自治会・町内会とともにすすめています。また、市内郵便業株式会社のバイク及び集配車にも「子ども110番」のシート・ステッカーを掲示しています。

担当：子ども生活部児童青少年課

CAPプログラム

子どもの権利と危険な場面から身を守る方法「CAPプログラム」を学ぶ講座。子どもワークショップと、大人が子どもを支援する方法を学ぶ大人ワークショップを実施しました。

担当:市民部市民協働推進課・男女平等推進センター

この個別目標を実現するために実施している事業

部名	事業名	事業の概要	対象	実施場所	所管課
建設部	自転車運転教室	各小学校・団体等からの申し込みを受け、町田警察署と共に自転車運転教室を開催。交通安全教育講習・自転車実技講習・筆記試験を受けた3年生以上の子ども達に「町田市自転車運転免許証」を交付。	子どもと大人	各小学校他	交通安全課
学校教育部	セーフティ教室	小・中学校において児童・生徒の健全育成の活性化及び充実を図るとともに、保護者・市民の参加のもとに、家庭・学校・地域社会の連携による非行・犯罪被害防止教育を推進。	町田市立小中学校に通う児童・生徒及び保護者	小・中学校	指導課
学校教育部	通学路安全点検	要望書が提出された小学校39校において、保護者会の代表、学校、町内会、町田警察署、市役所担当部署等と合同で、通学路を中心とした危険箇所を実地点検。現地で対策を協議し、共通の認識を得るとともに、要望に基づいて、注意看板等の設置や、樹木の剪定によって死角を減らす等の措置を講じ、地域における児童の安全確保を促進。	町田市立小学校に通う児童の保護者	各小学校通学路	学務課

- 3 - 個別目標2 子育てしやすいまちづくりをする

【個別目標の解説】

幼児や乳幼児を連れた親がまちの中を容易に移動できるようにします。

乳幼児を連れた親が外出中に外出先で子どもの世話を容易にできるようにします。

乳幼児を持つ親が必要なときに子どもを預けて外出することができるようになります。

【指標】

指標名	単位	2005年度 実績値	2006年度 実績値	2007年度 実績値	指標数値出典 (所管課)	備考
緊急な用事などの時に子どもを一時的に預けることができたと答えた保護者の割合	%	51.7	47.5	49.5	市民意識調査 (政策経営部企画調整課)	10段階評価の評価7以上の割合。 評価10が最高点。数値が大きいほど評価が高い。

みんなのおでかけマップ

町田市の補助を受けてNPO法人が運営しているホームページ「町田市バリアフリーマップ」の情報のうち「みんなのトイレ」が整備された施設を基本に外出支援情報を掲載した冊子です。「みんなのトイレ」の他に授乳室、車いす対応駐車場等についても記載しています。また、公共施設の多い町田駅周辺については、地図上に施設等の位置とバリアフリー情報を表示しています。

みんなのトイレ 車いす使用者をはじめ、障がい者・高齢者・乳幼児を連れた方等のみんなが利用できる大きさ・機能・設備等のあるトイレです（施設により介助が必要な場合があります）。

町田市バリアフリーマップ: <http://www.barrierfree-machida.com/>

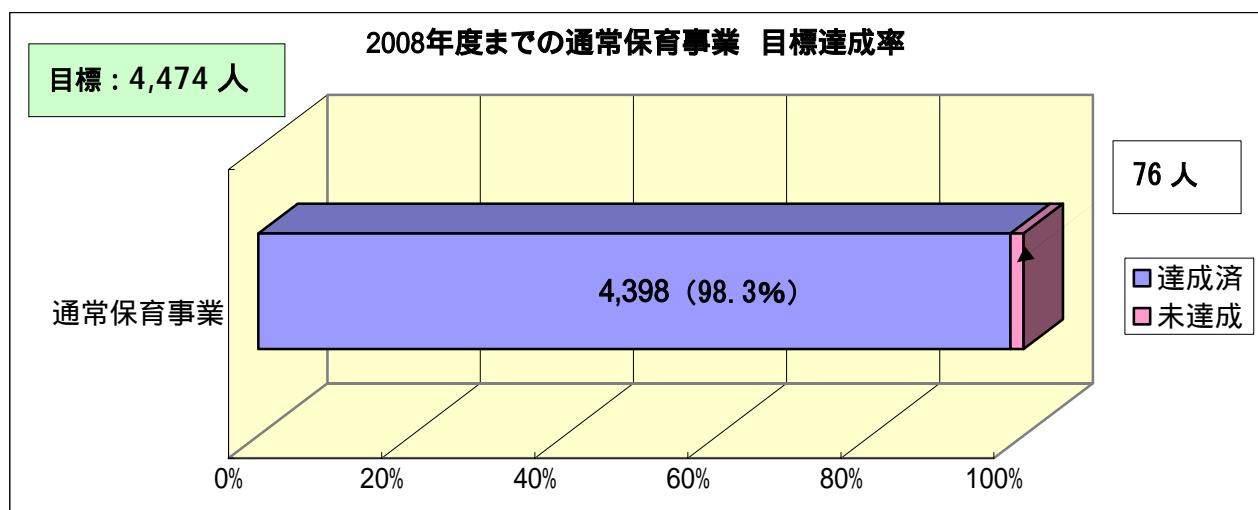
担当: 地域福祉部福祉総務課

5. 次世代育成支援対策推進法による特定14事業の状況

町田市子どもマスターPLANは、次世代育成支援対策推進法に基づく町田市の行動計画を含むものとして策定されています。行動計画の目標設定にあたっては、利用者等のニーズを踏まえ、可能な限り定量的に示し、具体的な目標を設定することが求められています。

1. 通常保育事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員(人)	4,116	4,259	4,474	4,474	4,474
実績	4,126	4,236	4,291	4,398	



【参考】 認証保育所

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員(人)	162	267	267	267	267
実績	127	191	209	225	

保育室

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員(人)	35	35	35	35	35
実績	35	35	24	24	

家庭福祉員

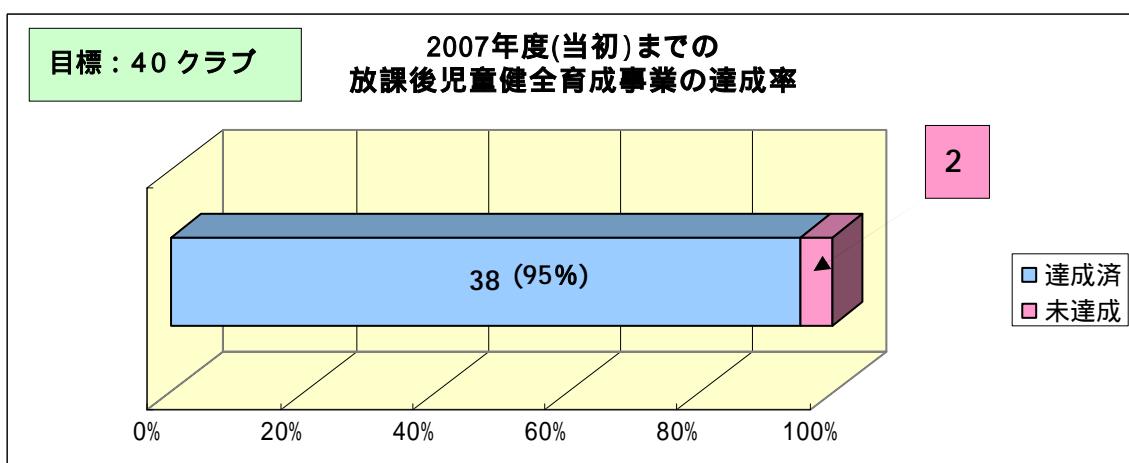
年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員(人)	9	49	49	49	49
実績	11	11	21	18	

私立幼稚園の預かり保育への補助（市単独事業）

年度	2005	2006	2007	2008	2009
幼稚園数	35	35	36	36	
補助対象園	5	6	7	7	

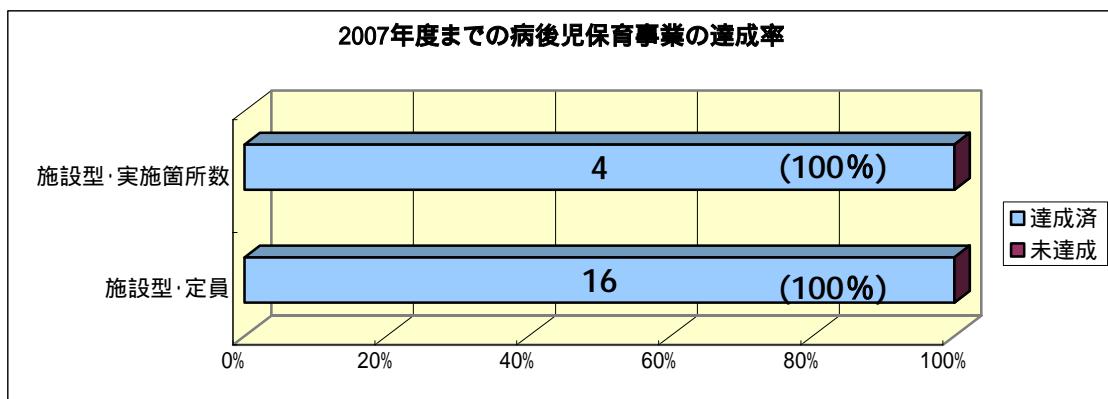
2. 放課後児童健全育成事業（学童保育クラブ）の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
実施箇所数	35	36	37	39	40
実績	35	36	38	39	



3. 病後児保育事業（施設型）の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員	16	16	16	16	16
実績	16	16	16		
実施箇所数	4	4	4	4	4
実績	4	4	4		



4. 病後児保育事業（訪問型） 今後の検討課題とする

5. 一時保育事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員	210	230	230	230	230
実績	251	273	280		
実施箇所数	21	23	23	23	23
実績	28	29	34		

6. 延長保育事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
1時間延長実施園	34	34	34	34	34
実績	34	33	33		
2時間延長実施園	11	13	14	14	14
実績	11	13	13		
3~4時間延長実施園	1	1	1	1	1
実績	2	2	2		

7. 休日保育事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員	20	20	20	20	20
実績	20	20	20		
施設数	1	1	1	1	1
実績	1	1	1		

8. 子どものショートステイ事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員	6	6	6	6	6
実績	6	6	6	6	
施設数	1	1	1	1	1
実績	1	1	1	1	

9. 子どものトワイライトステイ事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
定員	6	6	6	6	6
実績	5	5	5	5	
施設数	1	1	1	1	1
実績	1	1	1	1	

10. 地域子育て事業（保育園の子育てひろば事業）の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
実施園数	22	23	25	25	25
実績	20	20	19		

*1園が「集いの広場」事業に移行したため2007年度は減となった。

11. 集いの広場事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
実施箇所数	1	1	1	1	1
実績	1	1	2		

12. 特定保育事業（未実施）

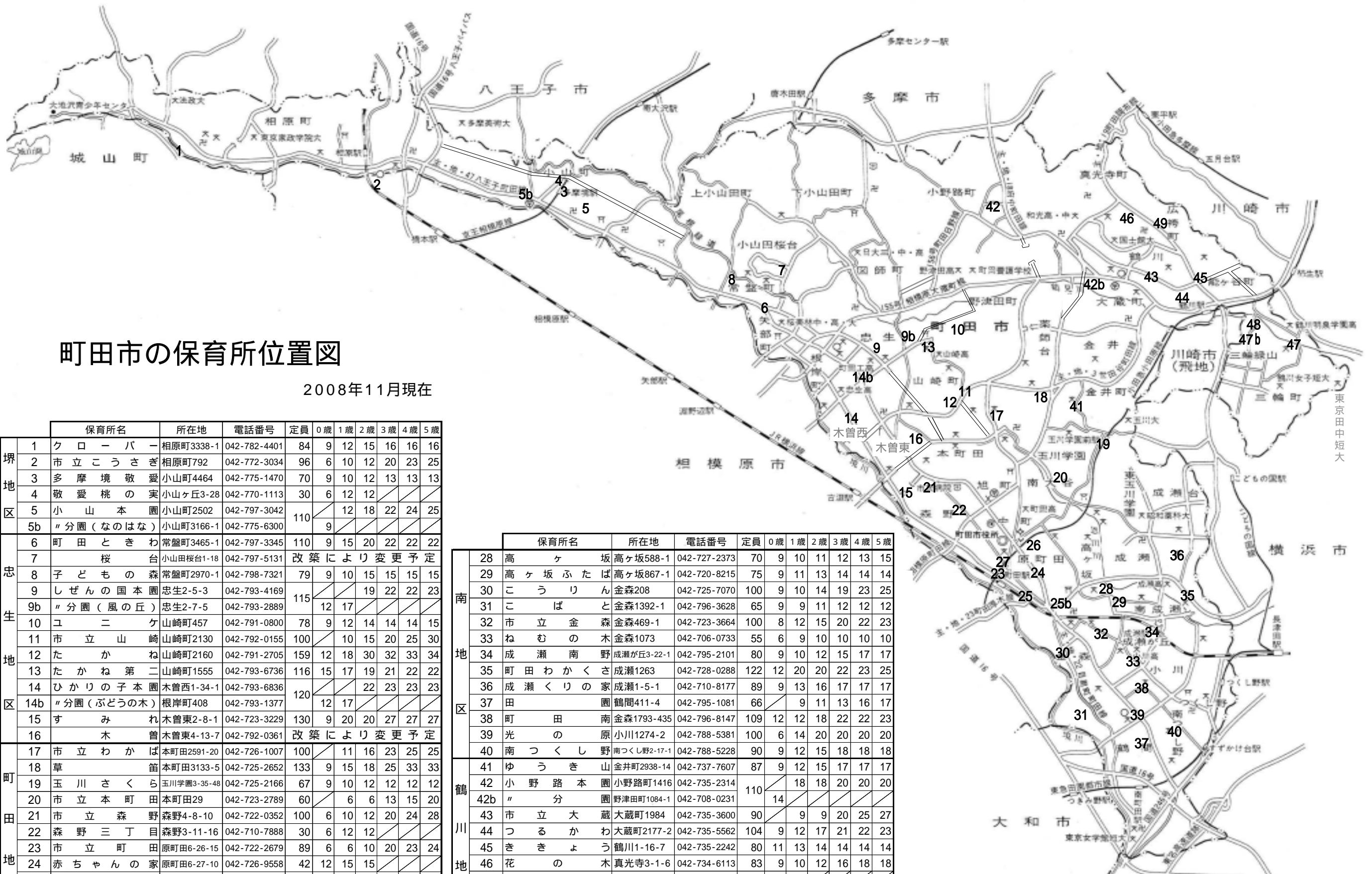
13. 夜間保育事業（未実施）

14. ファミリー・サポート・センター事業の目標量と実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009
依頼	1,945	2,078	2,168		
援助	554	577	565		
依頼・援助とも	135	152	162		
利用件数	14,898	15,693	15,056		

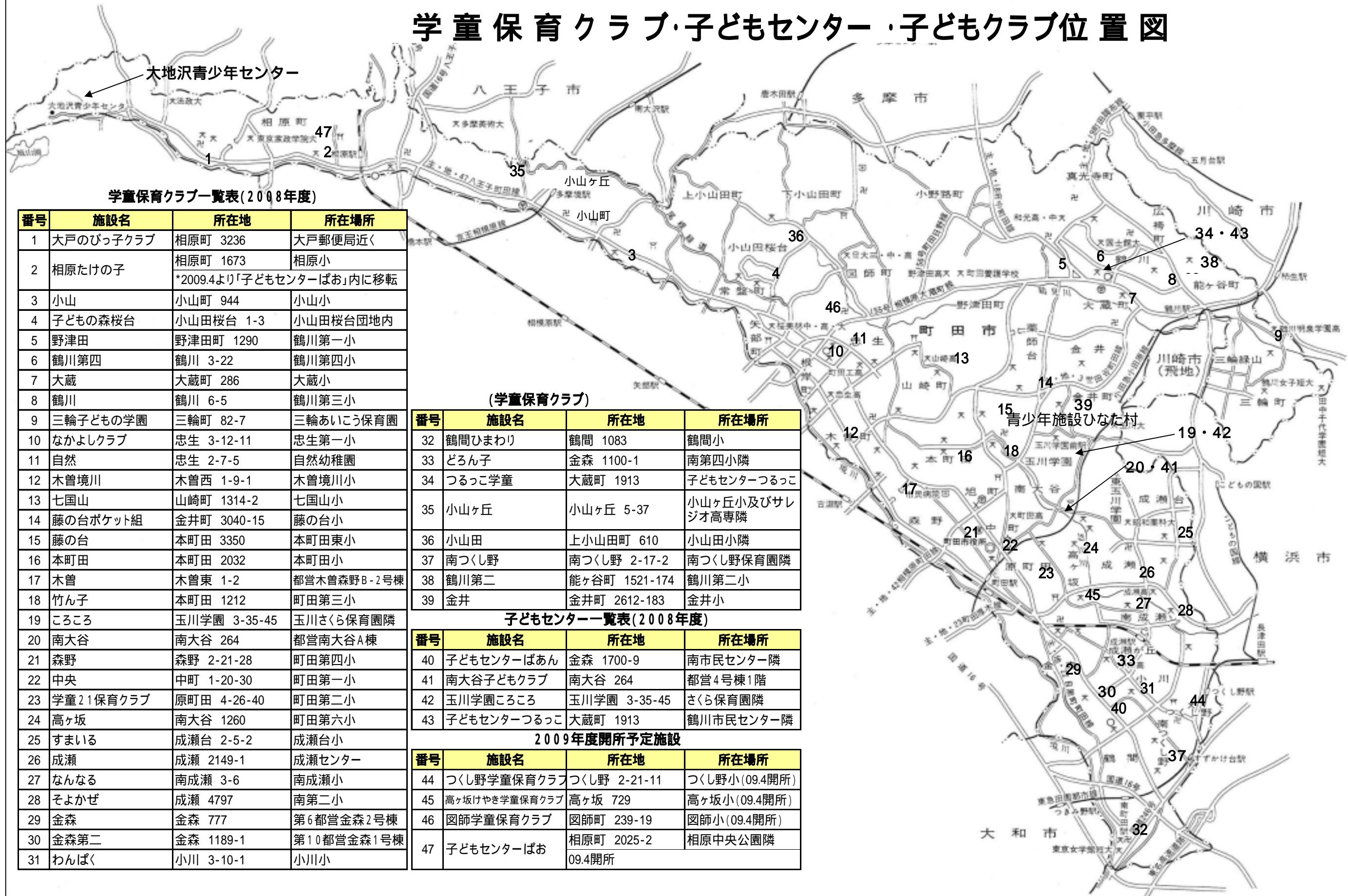
6. 町田市の組織



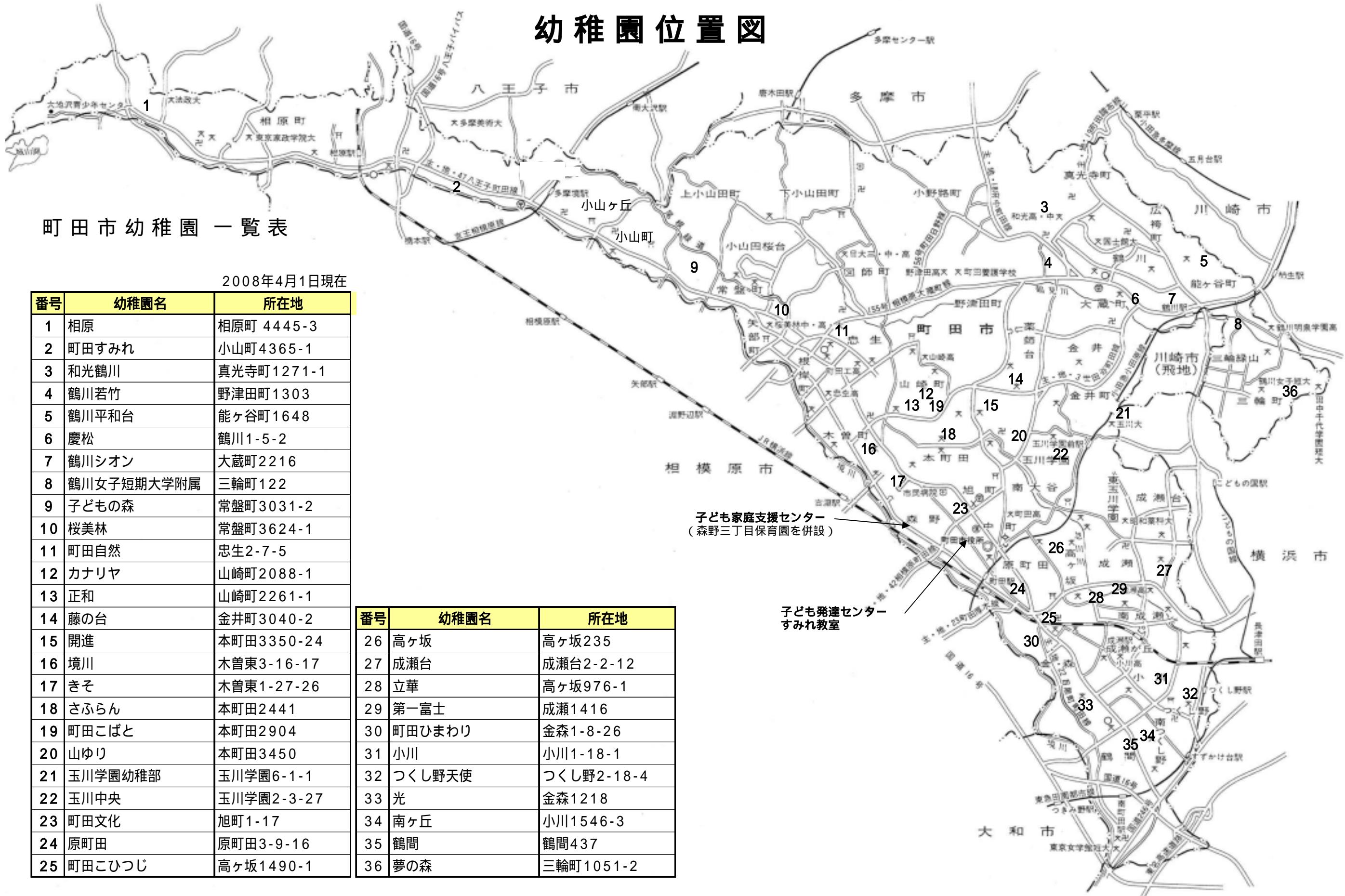


・ 桜台保育園、木曽保育園については
・ 改築により4月から入所定員が変更に
・ なる予定です。

学童保育クラブ・子どもセンター・子どもクラブ位置図



幼稚園位置図



本書に対するご意見等ございましたら、下記の子ども総務課
までお寄せください。

まちだの子ども施策 2008年度

発行年月 2009年1月
刊行物番号 08 65
発 行 町田市
〒194-8520 町田市中町1-20-23
TEL 042-722-3111(代表)
編 集 子ども生活部子ども総務課
TEL 042-724-2876(直通)